

スポーツ庁委託事業

「令和 6 年度スポーツキャリアサポート支援事業」における
スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営

事業実施報告書

株式会社フューチャー・デザイン・ラボ

FUTURE Design Lab
www.futuredesignlab.jp

目 次

I. 本年度の事業目的	．．．．．	P4
II. 事業計画と実績	．．．．．	P7
(1) 総会および運営委員会の開催に関する業務		
1) 計画	．．．．．	P9
2) 実績		
i) 総 会	．．．．．	P9
ii) 運営委員会		
ア) 開催実績	．．．．．	P10
イ) 決定事項	．．．．．	P12
(2) 会員団体の拡大・連携推進	．．．．．	P13
1) 計画	．．．．．	P13
2) 実績		
i) ～ iii) 会員団体の拡大関連	．．．．．	P13
iv) 会員団体の連携推進	．．．．．	P15
(3) プロジェクトの推進	．．．．．	P17
①アスリートキャリアコーディネーターの育成		
1) 計画	．．．．．	P17
2) 実績		
i) 受講ターゲット関連	．．．．．	P17
ii) ～ iii) ACC 活動支援・トレーナー養成プログラム	．．．．．	P19
iv) パラアスリート向けプログラム	．．．．．	P20
* ベーシックコース・アドバンスドコース講師・コース概要	．．．	P21
②キャリアセンターの運営及び機能充実 (ACC の活用)	．．．．．	P25
1) 計画	．．．．．	P25
2) 実績		
i) ～ ii) オープンコンテンツの充実・SCSCHP との連携	．．．	P25
iii) 事例づくり	．．．．．	P27
iv) マネタイズの検討	．．．．．	P28
③会員団体の発案にもとづくプロジェクトの推進	．．．．．	P29
1) 計画	．．．．．	P29
2) 実績	．．．．．	P29

(4) 情報発信コンテンツの充実および専用ウェブサイトのセキュリティ強化	P32
1) 計画	P32
2) 実績 i) ロールモデルのコンテンツ化	P32
ii～iv) 情報発信	P34
v) カンファレンスの開催	P35
vi) 専用ウェブサイトのセキュリティ強化	P36
(5) 今後に向けた検討	P37
III. Athlete Career Challenge カンファレンス 2025 の開催	P39
1. カンファレンスの概要	P39
2. 申込・参加状況	P43
3. 参加者のカンファレンス評価	p46
4. カンファレンスのまとめと今後の課題	P52
IV. まとめ	P53
V. 事業実施体制	P54
VI. 参考資料	P54
参考資料 1) － 1 SCSC 会則 令和 3 年 1 0 月 1 日改正版	
参考資料 1) － 2 寄附金等取扱規程	
参考資料 2) SCSC 会員一覧 2025 年 3 月末現在	
参考資料 3) SCSC サロンテーマ & 意見まとめ	
参考資料 4) ACC 育成プログラム申込者・受講者属性および受講後アンケート結果	
参考資料 5) 認定 ACC 活動状況アンケート結果	
参考資料 6) キャリアワークショップ受講後アンケート結果	
参考資料 7) － 1 カンファレンスチラシ	
参考資料 7) － 2 カンファレンス運営業務報告書 (株式会社MP & C作成)	

I.本年度の事業目的

アスリートのキャリア形成に関わるステークホルダーは複雑多岐にわたる中、「関係団体が連携し、アスリートがスポーツキャリア及びライフキャリアを両立させるためのシステムを構築し、支援を提供する（参照：SCSC 会則）」ことを目的として、コンソーシアムが存在する。

平成 23 年に制定されたスポーツ基本法の 25 条 2 項には下記のように記されている。

スポーツ基本法（平成 23 年法律第 78 号）第 25 条 2 項

国は、優秀なスポーツ選手及び指導者等が、生涯にわたりその有する能力を幅広く社会に生かすことができるよう、社会の各分野で活躍できる知識及び技能の習得に対する支援並びに活躍できる環境の整備の促進その他の必要な施策を講ずるものとする。

また令和 4 年に制定された第 3 期スポーツ基本計画には、「アスリートのキャリア形成」の今後の施策目標として「現役時のアスリートへ効果的にキャリア形成支援を行う支援者の不足等の課題を踏まえ、新たな取り組みを含め、アスリートのキャリア形成支援を着実に推進する」と明記されている。

その具体的な施策として

- ・中央競技団体等が実施する現役時のアスリートのデュアルキャリア形成支援が円滑に行われることを促す。
- ・スポーツ分野だけにとどまらず、スポーツ関連分野、さらには全くスポーツに関係しない新たな分野におけるアスリートの活躍事例を収集・調査分析し、現役アスリートや指導者等に対して、セミナー等を通じて広く情報提供を行い、多様な分野におけるアスリートのキャリア創出を促進する。
- ・引退時に現役時代に培った能力を社会に還元することができるよう、企業、地域団体、学校での運動指導やスポーツの価値・楽しさを伝える活動、教育活動等に関わる機会を、JOC が実施するアスリート派遣事業等を通して拡大する、と記載されている。

【課題】

アスリートのキャリア形成支援の現状

公費による支援を受けた優秀なアスリートの能力は社会の財産であり、その能力が社会に還元されるよう、中央競技団体等は、競技力向上と並行して、アスリートのキャリア形成支援に取り組むことが求められている。

一方で、こうしたアスリートのデュアルキャリア形成支援に積極的に取り組む中央競技団体はいまだ多勢とはなっておらず、現役時のアスリートへ効果的にキャリア形成支援を行う支援者が不足している。

また、各スポーツ団体、企業、チーム等によるアスリートのキャリア形成支援についての取り組みの好事例がスポーツ界全体に幅広く浸透しておらず、アスリートが地域や職場での運動指導、スポーツの価値を伝える活動に関わる機会も不足している。

SCSC の運営にあたっては、この第 3 期スポーツ基本計画の方針に則り、政策目標実現にむけてアスリートのキャリア形成支援策を関係団体と連携しながら推進していく。

私たちは、アスリートが安心してスポーツに取り組むことができ、引退後も自己実現ができるキャリアトランジションを成しえる環境をつくることは、スポーツ界だけでなく、まさに現代のキャリア形成にかかわる社会課題の解決に貢献するものと考えている。

日本社会においては「一所懸命」、「二兎追うものは一兎も得ず」という一つのことに専心することを是とした価値観のもとで、ビジネス界においても一つの会社、仕事に専念することがこれまでは是であり、スポーツ界においても競技活動に専念し結果をだすことが求められてきた。

しかし産業界では終身雇用の崩壊、副業の解禁、テレワークの推進など働き方、価値観の転換期を迎える中で、アスリートが、日本が直面する社会変化に応じたキャリア形成の一つのモデルとしてデュアルキャリア、キャリアトランスフォーメーションを実現できることを示すことは、スポーツ界のみならず日本全体の社会課題の一つであるキャリア形成に大きなインパクトを与えるものである。

そしてその実現には、産学官の戦略的連携が必要不可欠である。

アスリートが引退後のキャリアにおいてもスポーツで培った能力を発揮し活躍することは、アスリート個人の人生の充実のみならず、社会資源としてのアスリートの人材価値を社会に還元することにも繋がる。また、アスリートの競技活動内外の継続的な活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ産業の発展に貢献する。スポーツ産業の拡大は、競技団体の経営基盤を向上させ、競技力向上にも大きく貢献することとなり、好循環が生まれる。

アスリートがそれぞれの競技で行っている限界への挑戦が、競技を離れた後にも自らのキャリアへの挑戦へと転換され、自己実現を成し、社会へ貢献し続けることが、日本社会の成長、希望につながるものとする。

以下、本年度のスポーツ庁公募要領の記載に基づき、事業を展開する。

スポーツ庁令和6年度「スポーツキャリアサポート支援事業」公募要領より（一部抜粋）

スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営（（１）～（５））

（１）総会及び運営委員会の開催に関する業務

総会（１回以上）及び運営委員会（３回以上）の開催のために必要な事務を処理する。

（２）会員団体の拡大・連携推進

アスリートのキャリア形成支援に係る関係団体への啓発等を通じて、本コンソーシアム会員の拡大を図る。特に中央競技団体の加盟数が低迷しているという課題を踏まえ、中央競技団体が主体的に参加可能な体制を構築する。

（３）プロジェクトの推進

①アスリートキャリアコーディネーターの育成

キャリア移行期のアスリートが必要なタイミングでキャリア形成に関する支援を受けることができるよう、大学、中央競技団体、その他のスポーツ団体、プロスポーツチーム等への配置を想定し、現役アスリートのデュアルキャリア形成に必要な情報提供等を行う人材であるアスリートキャリアコーディネーター（ACC）を育成する。

（育成実績を踏まえ、その内容の改善や充実を図り育成する）

②キャリアセンターの運営および機能充実（ACCの活用）

ACCがアスリートに対して効果的にキャリア形成支援を行うことができる体制を構築するため、令和４年度に試行的に設置したアスリート、指導者等が利用可能な相談窓口（キャリアセンター）の運営を引き続き行う。令和５年度の運用状況や課題等を踏まえ、相談窓口機能等の充実を図り、ACCの活用を通じたアスリートのキャリア形成の支援体制を強化する。

③会員団体の発案に基づくプロジェクトの推進

会員団体の発案に基づいたプロジェクトを３件以上行う。

（４）情報発信コンテンツの充実及びウェブサイトのセキュリティ強化

専用ウェブサイトやSNS等を活用し、国内外から収集したスポーツキャリアに関する情報やデュアルキャリア教育の啓発につながる情報等の発信。

効果的な情報発信方法について検討を行い、専用ウェブサイト当のコンテンツの充実を図る。セキュリティ強化の観点から、現在の専用ウェブサイトのドメインを政府ドメイン（.go.jp）に変更する。

（５）今後に向けた検討

これまでのSCSCの成果や課題を踏まえ、今後のアスリートのキャリア形成支援の在り方およびSCSCが果たすべき今後の役割等について検討を行い、次年度以降に実施すべき事業や政策を提言する。

II.事業計画と実績

本事業の目的を達成するため、第1回運営委員会にて以下の事業計画が検討、承認され、本年度の事業を開始した。

令和6年度 SCSC 年間活動＜計画＞

	事業内容(1)	事業内容(2)	事業内容(3)				事業内容(3)	事業内容(4)	
	総会・運営委員会	会員関係の拡大・維持	①アスリートキャリアコーディネーターの育成				②キャリアセンター運用 ③会員関係とのプロジェクト	情報コンテンツの充実セキュリティ強化	
			新規育成		認定者向け				
	運営委員会	SCSCサロン (ACC継続学習)	Basicプログラム (ブラッシュアップ)	Advancedプログラム (ブラッシュアップ)	パラ向け ACC育成	トレーナー養成 勉強会等	SCSCキャリアセンター (共同プロジェクト)	事例映像 ロールモデル 情報提供	セキュリティ強化
5月									
6月	6月14日 総会 第1回運営委員会	第1回 6/25				企画・実施内 容作成	・オープンコンテンツ ・個別相談 カウンセリング ・協働プロジェクト ・インターンシップ ・オリジナルツール	検索機能追加 事例動画	サーバー乗せ換 え準備
7月		第2回 7/24							
8月	8月23日 第2回運営委員会	第3回 8/28				活動支援	SCSCホームページと の連携		サーバー移管
9月		第4回 9/25	Day1 8/29 Day2 9/ 5 Day3 9/12			トレーナー養成	実施事例づくり		
10月	10月11日 第3回運営委員会	第5回 10/30				活動支援			
11月		第6回 11/27		Day1 11/5 Day2 11/11 Day3 11/18		トレーナー養成			
12月	12月13日 第4回運営委員会	第7回 12/18							
1月		第8回 1/22			Day1 1/20 Day2 1/27				
2月	2月14日 第5回運営委員会	第9回 2/19							
3月	3月7日 第6回運営委員会	第10回 3/5	カンファレンス開催(2025年3月1日)						

令和6年度 SCSC 年間活動＜実績＞

事業内容 (1)		事業内容 (2)		事業内容 (3)			事業内容 (3)		事業内容 (4)	
総会・運営委員会	会員団体の拡大・連携	①アスリートキャリアコーディネーターの育成					②キャリアセンター運用		情報コンテンツの充実 セキュリティ強化	
		新規育成		認定者向け			③会員団体とのプロジェクト			
運営委員会	SCSCサロン (ACC継続学習)	Basicプログラム (ブラッシュアップ)	Advancedプログラム (ブラッシュアップ)	パラ向け ACC育成	トレーナー養成 勉強会等	SCSCキャリアセンター (共同プロジェクト)	事例映像 ロールモデル 情報提供	セキュリティ 強化		
5月					企画・実施内 容作成		ロールモデル			
6月	6月14日 総会 第1回運営委員会	第1回 6/25							サーバー乗せ換 え準備	
7月		第2回 7/24								
8月	8月21日 第2回運営委員会	第3回 8/28	Day1 8/29 Day2 9/ 5 Day3 9/12							
9月		第4回 9/25							健大高崎 9/6 富山サンダーバース9/23 石川ミリオンスタース9/24	
10月	10月10日 第3回運営委員会	第5回 10/23								
11月		第6回 11/27	Day1 11/5 Day2 11/11 Day3 11/18						記事UP (1) 記事UP (2) 記事UP (3)	
12月	12月13日 第4回運営委員会	第7回 12/14							平成国際大学12/5～12 ジャパンリーグ 12/10 レジャックススポーツ 12/14 記事UP (4) 記事UP (5) 記事UP (6)	
1月		第8回 1/22		Day1 1/20 Day2 1/27					パナソニックコネクト1/16 女子体操ジュニア 1/21 記事UP (7)	
2月	2月13日 第5回運営委員会	(カンファレンスと統合)	カンファレンス開催(2025年2月26日)							記事UP (8) 記事UP (9) 記事UP (10) 記事UP (11)
3月	3月6日 第6回運営委員会	第10回 3/5				SCSC HPリニューアル 3/10 UNIVAS連携 (東洋大学3/12) 記事UP (12) 記事UP (13) 記事UP (14) 記事UP (15) 記事UP (16)				

以下、項目ごとに計画と実績を記す。

(1) 総会及び運営委員会の開催に関する業務

1) 計 画

下記スケジュールで総会および運営委員会の開催を計画。

24 年 6 月	2024 年度第 1 回総会・第 1 回運営委員会
24 年 8 月	2024 年度第 2 回運営委員会
24 年 10 月	2024 年度第 3 回運営委員会
24 年 12 月	2024 年度第 4 回運営委員会
25 年 2 月	2025 年度第 5 回運営委員会
25 年 3 月	2025 年度第 6 回運営委員会

2) 実 績

i) 総 会

総会は、毎年一回開催することが SCSC 会則によって定められており、本年度も事業の開始に合わせて開催した。

① 総会

日付	会議	議事次第	参加数
6/14	令和 6 年度 SCSC 総会	1. 決議事項 令和 6 年度 運営委員の選任について 2. 令和 6 年度の事業（案）についての説明 3. 新規入会団体（昨年 の 総会以降に入会した団体）の紹介	88 名 (議長一任 35 名) 書面決議 1 名 計 89 名

総会にて令和6年度運営委員が以下の通り決定し、本年度の事業が開始された。

運営委員の任期は、令和6年度6月14日から令和7年度の総会の終結の時までとなる。

令和6年度スポーツキャリアサポートコンソーシアム運営委員22名（50音順）

氏 名	所属組織
青木 雄介	公益社団法人日本フェンシング協会 常務理事
浅川 伸	公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構 専務理事
荒牧 太郎	一般財団法人日本フットサル連盟 アスリート委員会 委員長
伊地知 和義	株式会社スポーツフィールド 取締役副社長
岩渕 健輔	公益財団法人日本オリンピック委員会 理事
小野 真由美	公益社団法人日本ホッケー協会 アスリート委員会 委員長
葛西 順一	公益社団法人全国大学体育連合 専務理事

木村 昌彦	公益財団法人全日本柔道連盟 指導者養成委員会委員長
日下 光彦	独立行政法人日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター ハイパフォーマンス戦略部長
佐藤 由佳子	NNT コミュニケーションズ株式会社ヒューマンリソース部人材・組織開発部門 キャリアデザイン室キャリアコンサルティング・マネージャー
五月女 淳	公益財団法人日本バスケットボール協会 事業戦略／基盤強化グループ ゼネラルマネージャー
高橋 義雄※	早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授
田口 禎則	一般社団法人日本トップリーグ連携機構 理事・事務局長
竹原 啓二	株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長
立花 泰則	公益財団法人日本体操協会 情報医科学アンチ・ドーピング委員会 委員長
長野 宏美	公益財団法人日本テニス協会 アスリート委員会 副委員長
星野 一朗	公益財団法人日本卓球協会 副会長
三上 真二	公益財団法人日本パラスポーツ協会 参事
藤田 真也※	特定非営利活動法人キャリアカウンセリング協会 会長・理事
室伏 由佳※	順天堂大学スポーツ健康科学部 前任准教授
森岡 裕策	公益財団法人日本スポーツ協会 専務理事
森下 尚紀	株式会社 MPandC 代表取締役社長

* 学識経験者として、本会の運営にかかわる。

ii) 運営委員会

(ア) 開催実績

運営委員会は、本会の意思決定機関として位置づけられており、本会の運営に関する事項を審議する場である。本年度は第1回運営委員会にて6月から3月まで隔月での開催日程を決定し、スケジュール通り6回実施した。

日付	会議	議事次第	参加数
6/14	第1回運営委員会	1. 決議事項 役員の選任について 2. 検討事項 1) 令和6年度の事業（案）についての報告及び意見交換 ・令和6年度全体計画について ・活動テーマ・事業運営に関わる体制について 2) SCSC自主財源獲得の方向性について 3. 報告事項 1) 寄附金口座の会計報告 2) コンソーシアム入会団体について	参加17名 （議長へ一任3名） 欠席2名

8/21	第2回運営委員会	1. 報告事項 1) ACC育成プログラムの進捗状況について ・ACCベーシックコース進捗状況 2) SCSC ホームページのドメイン移管の件 3) SCSCサロン・継続学習セミナーの進捗状況 4) 協働プロジェクトの件 5) 新規会員入会状況 2. 検討事項 1) アスリートキャリアチャレンジカンファレンス日程について 2) 組織の在り方検討委員会（開催報告） 3) その他	参加20名 欠席2名
10/10	第3回運営委員会	1. 検討事項 1) 令和6年度カンファレンスについて i) テーマ・開催日時について ii) 運営パートナー募集について 2) ACCの活動活性化に向けて 2. 報告事項 1) ACC育成プログラム実施状況 i) ベーシックコース・アドバンスドコース ii) パラアスリートキャリアサポート基礎コース 2) SCSCキャリアセンター 協働プロジェクト実施状況 3) SCSCサロン実施状況 4) 会員団体入会状況 5) その他	参加20名 欠席2名
12/13	第4回運営委員会	1. 検討事項 1) 令和6年度カンファレンスについて i) プログラム構成等について ii) 集客について 2. 報告事項 1) ACC活動状況について 2) ACC認定者のHPへの掲載について 3) ACC育成プログラム（アドバンスドコース）実施状況 4) SCSCキャリアセンター 協働プロジェクト実施状況 5) SCSCサロン実施状況 6) 会員団体入会状況 7) その他	参加17名 欠席5名

2/13	第5回運営委員会	1. 検討事項 1) 令和6年度カンファレンスについて i) プログラム構成等について ii) 集客について iii) 交流会の費用について 2. 報告事項 1) ACC育成プログラム実施状況 2) SCSCキャリアセンター 協働プロジェクト実施状況 3) SCSCサロン実施状況 4) ロールモデル記事取材状況 5) 会員団体入会状況 6) その他	参加19名 欠席3名
3/6	第6回運営委員会	1. 報告事項 1) アスリートキャリアチャレンジカンファレンス2025 2. 実施報告 2) SCSCキャリアセンター協働プロジェクトの実施状況 3) SCSCサロン実施状況 4) ロールモデル取材状況 5) SCSC ホームページ コンテンツ・機能追加の件 6) 会員団体入会状況 3. その他（次年度に向けて）	参加16名 欠席6名

（イ）決定事項

①役員の選出

第1回運営委員会にて、以下の通り、役員が選出された。

会長 高橋 義雄

副会長 森岡 裕策

岩渕 健輔

日下 光彦

田口 禎則（新任）

(2) 会員団体の拡大・連携推進

1) 計 画

各中央競技団体のアスリート委員会、スポーツ指導者層と連携を進め、SCSC への入会促進につなげる。新たな取り組みとして、アスリート人材の雇用に積極的な企業の開拓、および地方自治体等との連携・開拓に取り組む。

- i) アスリート委員へのアプローチ
- ii) 企業・地方公共団体の開拓
- iii) 連携推進 SCSC サロンの定期開催・充実を図る

★会員数目標 ⇒令和 6 年度 150 団体突破をめざす

2) 実 績

i) アスリート委員へのアプローチ

昨年度から参加いただいた公益財団法人日本テニス協会アスリート委員会副委員長・一般財団法人日本フットサル連盟アスリート委員会委員長、公益社団法人フェンシング協会常務理事に加え、日本ホッケー協会アスリート委員会委員長に新たに運営委員として参加いただくことができた。また本年度のカンファレンス開催にあたっては JOC の協力のもと JOC アスリート委員会メンバーとの連携を進め、JOC アスリート委員から各競技団体のアスリート委員のネットワークにもアプローチでき、アスリートへの認知を大きく獲得することができた一年となった。

ii) 企業・地方公共団体の開拓

本年度はミズノ株式会社、ソニー生命保険株式会社、パナソニックコネクト株式会社といった影響力のある大手企業に参加いただくことができた。また地方自治体として初めてとなる静岡県に参加が確定（入会日付は 2025 年 4 月 1 日付）した。

「ならアスリートキャリアセンター」を設置する際にアスリートキャリアコーディネーターを採用した奈良県やアスリートキャリア支援に積極的な佐賀県、他自治体ともネットワークができ、次年度に向けて地方自治体とのさらなる連携の可能性が広がってきた。

課題である中央競技団体においては、本年度は、下記 4 団体の入会を獲得することができた。

一般社団法人日本車いすテニス協会
一般社団法人日本車いすカーリング協会
一般社団法人日本テコンドー協会
一般社団法人日本パラカヌー連盟

令和6年度の会員団体数は、130団体（3月16日時点）となり目標とした150団体には及ばなかったが、実業団チームをもつ企業の参加、地方自治体の参加確定、大学の参加など今後の展開につながる企業・団体の参加を得ることができた。

令和6年度期初	112団体	⇒	令和6年度末時点	130団体
---------	-------	---	----------	-------

※SCSC会員一覧は、*[参考資料2）SCSC会員一覧 2025年3月現在](#) 参照

新規入会団体一覧（18団体）

新規入会団体		紹介元
6月	一般社団法人日本車いすテニス協会	運営委員/カンファレンス
	上越教育大学	運営委員
	株式会社湘南メジャーカンパニー	事務局
	株式会社ウィルフォワードアスリート	運営委員
7月	株式会社 TVC	事務局
	一般社団法人日本車いすカーリング協会	スポーツ庁広報レター反響
8月	一般社団法人日本テコンドー協会	スポーツ庁広報レター反響
9月	株式会社 R_body	運営委員
	一般社団法人日本パラカヌー連盟	カンファレンス・スポーツ庁広報レター反響
10月	グロフィールド株式会社	会員団体
11月	ミズノ株式会社	運営委員
12月	ソニー生命保険株式会社	ACC 認定者
	パナソニックコネクト株式会社	スポーツ庁
	一般社団法人日本アスリート支援協会	ACC 認定者が設立
1月	一般社団法人 YAMAGATA ATHLETE LAB	会員団体
	大阪体育大学	運営委員
2月	株式会社共立ソリューションズ	事務局
	尚美学園大学	運営委員

iii) 会員団体の連携推進

本年度SCSCサロンは6月から月1回を基本開催とし9回実施。位置づけをこれまでのACCの「学びの場」からACCの「アウトプットの場」に変更、登壇者のプレゼンテーション・課題提起に対してディスカッション、提案を行う形での運用を基本とした。その結果各回の平均参加人数は67.6名と昨年の115.8名を大きく下回ったが、さまざまなバックグラウンドをもつACCの知見を活かす場とすることができた。

参考資料3) SCSCサロンテーマ&意見まとめ 参照

	日時	講 師	備考
第1回	6月25日 参加人数 77名	フットサル連盟 アスリート委員長 荒牧 太郎氏	課題1) 連盟スタッフやクラブ関係者へのSCSCの認知を広げるために何が出来るか？効果的なアクションは？ 課題2) 選手が継続的にキャリアに関する意識を持続けるには何が必要だったのか。今後何をすべきなのか。
第2回	7月24日 参加人数 65名	宇山 賢 氏 ACC 認定者 東京五輪 フェンシング 金メダリスト	課題1) フェンシングの競技環境の整備だけでなく、競技後の人生をいかに考えさせられるか？フェンシング競技者へのキャリア教育が満足に実施されていない現状も踏まえ、ACCが支援できる部分はどこか？
第3回	8月28日 参加人数 41名	SCSC 会員 ジャパンリーグ 鷲崎 一誠 氏	11月～12月にプロになるためのトライアウトリーグと技術向上のためのスキルアップリーグを運営。この参加対象者となる選手をイメージして 課題1) 現役時代のキャリア教育について考える。 課題2) 現役を終わった後のフォローアップを考える。
第4回	9月25日 参加人数 63名	SCSC 会員 上越教育大学 学長 林 泰成 氏	・アスリートのセカンドキャリアとしての小学校教員という選択肢 課題1) アスリートが小学校教員を目指す場合、どのようなことがハードルになるのか
第5回	10月23日 参加人数 63名	SCSC 会員 レジックスポーツ 岡崎 美穂 氏	・2022年度からキャリアビジョン研修に取り組み、本年度3年目を迎える。これまでの取り組みの成果や課題についてACCと共有し、課題の解決策を考える。12月14日(土)にアスリート向けに実施する研修にACCがオンラインオブザーブできる形でこのサロンと連動した運営とする
第6回	11月27日 参加人数 65名	SCSC 会員 リトルアスリート 杉原 龍馬 氏	・アスリートの意識改革：アスリートのキャリア支援に対する取り組みが活発化する中でアスリート自身がそれを活用していないのか。 ➡アスリート自身の意識における課題の洗い出し ➡アスリートが活動する環境における課題の洗い出し

第 7 回	12 月 14 日 参加人数 72 名	ACC 育成プログラム 講師 川島 隆一 氏	レジックスポーツ キャリアビジョンワークショップⅢ オブザープ
第 8 回	1 月 22 日 参加人数 125 名	ACC 大垣 知哉 氏 奈良県 地域創造部スポーツ振興 課地域スポーツ係係長 川嶋 剛 氏	ACC の活動事例 国スポ開催に向けた奈良県の取り組み 課題 1) アスリートの県外流出をどう食い止めるべきか？ 課題 2) 流出したアスリートを県内に戻すために有効な手立てとは？
第 9 回	2 月 19 日	(休講)	カンファレンスへ統合
第 10 回	3 月 5 日 参加人数 38 名	事務局運営	カンファレンスでアスリートから出てきた課題感を素材にし、ACC のみなさんでディスカッション

(3) プロジェクトの推進

① アスリートキャリアコーディネーターの育成

1) 計 画

計画)

- i) アスリートと接点のある人材を育成のメインターゲットとする。
- ii) ACC の活動を後押しするための勉強会・研修会を開催（ACC 認定者一覧の設置）
- iii) SCSC キャリア研修のトレーナー養成プログラムを新設
- iv) パラアスリート向けの ACC の育成に継続的に取り組む

2) 実 績

- i) アスリートと接点のある人材を育成のメインターゲットとする。

251名の応募に対しアスリートとの接点等を考慮した選抜を行い、206名を受講対象者とした。

ベーシックコース申込者属性		令和3年度 (n=178)	令和4年度 (n=100)	令和5年度 (n=250)	令和6年度 (n=251)
スポーツ関連業務に従事しているか					
	専業として従事している	56%	51%	15%	20%
	副業・ボランティアとして従事している	25%	22%	32%	33%
	いいえ	19%	27%	53%	47%
アスリートのキャリア形成支援の実務経験について					
	ある	41%	34%	25%	31%
	ない	59%	66%	75%	69%

選抜を行った結果、受講対象者の属性は下記の通りとなった。

選抜後のベーシックコース受講者属性		令和5年度 (n=182)	令和6年度 (n=206)
スポーツ関連業務に従事しているか			
	専業として従事している	19%	24%
	副業・ボランティアとして従事している	41%	40%
	いいえ	40%	36%
アスリートのキャリア形成支援の実務経験について			
	ある	32%	38%
	ない	68%	62%

ベーシックコース	
実施日時	8月29日(木)
	9月5日(木)
	9月12日(木)

申込者	251名
受講選抜	206名
受講修了	177名
課題提出	172名

アドバンスドコースは、本年のベーシックコース修了者および昨年までにベーシックコースを修了している者が受講対象となる。申込者の属性はアスリートのキャリア形成支援の実務経験があると回答した層が 37%となった。クラブチームや大学スポーツの競技経験の有無については昨年同様にほぼ半々の結果となっている。オリンピック、国際大会の出場経験がある、強化指定選手、プロ等の競技実績のある層の比率は昨年と比較すると低下したが、アスリートのキャリア形成支援の実務経験がある層のシェアは増加しており、スポーツにかかわる人達が ACC 取得ための学びに参加していることがうかがえる。

アドバンスドコース申込者属性		令和 4 年度 (n=234)	令和 5 年度 (n=150)	令和 6 年度 (n=168)
アスリートのキャリア形成支援の実務経験				
	あり	18%	35%	37%
	なし	82%	65%	63%
クラブチームや大学スポーツでの競技スポーツの経験				
	あり	23%	49%	52%
	なし	77%	51%	48%
現役時代の競技レベル（スポーツ経験ありと回答した人）		(n=54)	(n=74)	(n=88)
	オリンピック、国際大会の出場経験あり	2 %	20%	14%
	協会が指定する強化指定選手	6 %	3%	1%
	プロリーグに参加するチームに所属	2 %	10%	1%
	クラブチームに所属	16%	20%	19%
	大学体育会運動部に所属	54%	35%	57%
	その他	20%	12%	8%

アドバンスドコース	
実施日時	11 月 5 日（火） 11 月 11 日（月） 11 月 18 日（月）

申込者	168 名
受講修了者	156 名
ACC 認定者	150 名

本年度の新たなアスリートキャリアコーディネーター（ACC）の認定者は150名となり、累計でのACC認定者は943名となった。

	ACC 認定
令和 3 年度	492 名
令和 4 年度	172 名
令和 5 年度	129 名
令和 6 年度	150 名
合計	943 名

- ii) ACCの活動を後押しするための勉強会・研修会を開催（ACC認定者一覧の設置）
- iii) SCSCキャリア研修のトレーナー養成プログラムを新設

本年度は前述のSCSCサロンを登壇者（競技団体やクラブ、アスリート等）が抱える具体的な課題を提示し、参加者（ACC）がその課題解決策を考える場と位置付けたことで、ACCの知見を引き出す形の実践的な学びの場をつくることができた。

また、協働プロジェクトとして実施したキャリア研修プログラムのオンラインオブザーブの場をACCに対して設け、具体的な活動のイメージづくりをおこなった。研修内容のパッケージ化、トレーナー養成プログラムを実施するところまでは至らずに終了となった。

ACC認定者の一覧設置については、掲載希望者を募り310名の一覧をSCSCホームページ上に掲示した。

（2025年3月10日リニューアル時に掲載 https://sportcareer.mext.go.jp/members/acc_member）

所有資格やコメントからACCを検索できる機能をもたせ、ACCの活用を促す形とした。

サイトリニューアルのローンチが年度末となったため、活用については来年度以降となるが、ACCに対する依頼ニーズをSCSC事務局で受け、依頼案件を担当したいACCを募集し、依頼者に紹介することを想定している。



[組織概要](#)
[活動紹介](#)
[会員情報・ACC認定者](#)
[キャリアセンター](#)







[ホーム](#) > [会員情報・ACC認定者](#) > [ACC認定者](#)

アスリートキャリアコーディネーター（ACC）認定者

アスリートキャリアコーディネーター（ACC）とは、スポーツキャリアサポートコンソーシアムが養成しているアスリートのキャリア形成支援をサポートする人材です。いわばアスリートのみなさんのキャリア形成支援のサポーター的な存在です。

競技団体やチームに伴走するACCを募集したい、キャリアに関するセミナー・研修等をACCに依頼したい等のご相談は、SCSC事務局で承りますので「お問合せ」よりご連絡をお待ちしております。



キャリアコンサルティングに関する資格および自己PRのコメント（30文字）を対象にフリーワード検索でACCを検索することが可能

ACC認定者一覧

[凡例の見方](#)

☐ 保有資格

☐ 国家検定
キャリアコンサルティング
技能士1級

☐ 国家検定
キャリアコンサルティング
技能士2級

☐ 国家資格
キャリアコンサルタント

フリーワード

iv) パラアスリート向けの ACC の育成に継続的に取り組む

実績)

昨年度スタートしたプログラム「パラアスリートへのキャリアサポート基礎知識・スキル習得講座」を本年度も実施（2 Day のプログラム）。参加対象者は ACC 認定者限定、昨年の定員 30 名から定員 100 名に増員したが、それを上回る 120 名の申込があり、パラアスリート支援に関する関心の高さが伺えた。

申込者	120名
受講対象者	102名
受講修了者	86名

パラアスリートへのキャリアサポート基礎知識・スキル習得講座 講師



田沼 泰輔
たぬま たいすけ

株式会社ダイバビリティ総合研究所代表取締役所長／
事業構想大学院大学特任教授
学習院大学非常勤講師／事業構想修士（専門職）／国家資格キャリアコンサルタント／キャリアカウンセリング協会認定スーパーバイザー／
GCDF-Japanキャリアカウンセラー

組織のダイバーシティマネジメント推進に向けた多様な支援活動を展開。
昨年度からACCとしてアスリートのキャリア開発支援やACC資格取得を目指す方々の育成指導にも本格的に参画する。



初瀬 勇輔
はつせ ゆうすけ

ユニバーサルスタイル代表取締役
日本パラリンピアンズ協会 副会長／日本視覚障害者柔道連盟 会長
日本パラリンピック委員会 運営委員／内閣府障害者政策委員会 委員

2004年大学在学中に緑内障により視覚障害となる。2011年に障害者雇用を創造する会社『ユニバーサルスタイル』を立ち上げ、独立。
会社の経営者として活躍する傍ら、視覚障害者柔道の選手として活動。
2005年～2013年、全日本視覚障害者柔道大会で90kg級、81kg級あわせて9回の優勝。2008年北京パラリンピック柔道90kg級に出場。

【講師陣】

Day 1 アスリートのキャリアの 環境理解とキャリア理論  高橋 義雄 ・スポーツキャリアサポート コンソーシアム会長 ・早稲田大学 スポーツ科学学術院教授 博士（スポーツウエルネス学） ・日本卓球協会評議員 ・日本女子ソフトボールリーグ 機構監事  布施 努 ・スポーツ心理学博士 ・(株)Tsutomu FUSE, PhD Sport Psychology Services 代表取締役 ・慶応義塾大学スポーツ医学研究 センター研究員 ・明治大学大学院特別招聘教授 ・社会人日本代表スポーツ サイコリスト	Day2 アスリートの 能力診断と分析  川島 隆一 ・川島事務所代表/ GCDF-Japanキャリアカウンセラー ・プロスポーツクラブ経営支援 ・学生アスリートキャリア支援など ・スポーツに関わる経験多数	Day 3 対話力向上 トレーニング  網野 千文 ・キャリアカウンセリング協会専任講師 ・スーパーバイザー東京大学キャリア・ サポート室設立 ・1級・2級キャリアコンサルティング 技能士（国家技能検定） ・国家資格キャリアコンサルタント
--	--	---

【ベーシックプログラム】

Day1		
①	環境理解	アスリートキャリアの課題について、アスリートを取り巻く昨今の環境を理解する
②	ACC の理解	ACC が必要とされた背景を知り、ACC の役割と実際の活動について理解する
③	キャリア理論	理論や事例をもとに、終身雇用が保証されない今日の流動化した社会環境のなかでアスリートのキャリアアトランジションを、どのように捉えるかについて考えを深める
④	アスリート特有の課題	アスリートのキャリアアトランジションに特有のさまざまな課題について理解する
⑤	次回までの課題	（自分の社会人基礎力テストの結果の読み込み）
Day2		
①	アスリート理解	Day1 の宿題：自身のテスト結果をみながら診断テストのツールとしての理解を深める
②	社会人基礎力の概念理解	社会人基礎力の概念理解
③	ケーススタディ	アスリートのテストのサンプリングデータおよびプロフィールデータ例を題材に支援計画を考える（グループ議論）
④	解説	ケース解説
Day3		
①	対話の基本スキル	相談を受けるときに最も大切な基本スキル「聴くこと」 相談者（アスリート）の視点と自分（ACC）の視点のギャップの理解
②	実践トレーニング （ロールプレイ）	アスリート役と ACC 役に分かれ、アスリートの相談にのるトレーニングを実施 小グループに分かれ相談場面を体験してみる（各グループにトレーナーを配置）
③	まとめ	Day 3 を通した学びの整理＜1対1でのキャリア支援の基本＞
④	全体まとめ	Basic プログラムのまとめ

【講師陣】

Day1

11月5日
アスリート理解および
仕事探索
ビジネスシーンへの
翻訳



川島 隆一 かわしま りゅういち

川島事務所代表／GCDF-Japanキャリアカウンセラー／
大学生、社会人の人材育成に従事中。プロスポーツクラブ経営支援、学生アスリートキャリア支援
などスポーツに関わる経験多数／トライアスロン歴30年。アイアンマン世界選手権に18回出場

Day2

11月11日
アスリート
指導者
企業・雇用者
それぞれの
視点からみた
キャリア支援



諏訪部 彩 すわべ あや

元ソフトボール実業団選手（日立に所属）/高校時エースとして全国大会三冠/1999年世界女子
ジュニア選手権代表（優勝）/国家資格キャリアコンサルタント/ 現在株式会社アイトカム・代表取締役
社長。実業団時代は思うような結果が出せず挫折を経験。引退後はスポーツとは別の道を志し、
専門学校のビジネス学科の講師、経営コンサルタントを経て、現在は独立し自身の経験を活かして発
達障害と向き合う親子へのサポートサービスを提供。



藤生 喜代美 ふじう きよみ

バスケットボール実業団チームで8年間プレイ（シャンソンVマジック）/2001年世界ジュニア選手権出
場/28歳で早稲田大学スポーツ科学部入学、2年次インカレ優勝。3年次から大学院にかけて4年間
アシスタントコーチ、2016年から2年間ヘッドコーチを務める。/2018年より早稲田大学本庄高等学院
にて保健体育の教員として、女子バスケットボール部の顧問も務め現在に至る。



山谷 拓志 やまや たかし

静岡ブルーレヴズ株式会社 代表取締役社長
1970年生慶大卒93年リクルート入社。アマフト選手としても活躍し96年度98年度ライスボウル優勝。
00年選手引退後アシスタントGM兼コーチ就任02年度日本社会人選手権優勝。リンクアンドモチベー
ションを経て07年に栃木ブレックス創設。設立3年目で日本一となり黒字化を達成。日本バスケット
ボールリーグ専務理事を経て14年より茨城ロケット社長就任。経営を再建し21年にB1リーグ昇格を
果たす。21年6月から現職。



田沼泰輔 たぬま たいすけ

株式会社ダイバリティ総合研究所代表取締役所長／事業構想大学院大学特任教授
学習院大学非常勤講師／事業構想修士（専門職）／国家資格キャリアコンサルタント／キャリアアカ
ウンセリング協会認定スーパーバイザー／ GCDF-Japanキャリアカウンセラー。組織のダイバーシティマネ
ジメント推進に向けた多様な支援活動を展開。昨年度からACCとしてアスリートのキャリア開発支援や
ACC資格取得を目指す方々の育成指導にも本格的に参画する。

Day3

11月18日
組織・チーム等
集団への
ファシリ
テーション



八田 茂 はった しげる

（株）リクルートで20年間人材系ビジネスに従事し、キャリアコンサルタント資格GCDF取得。その後ス
ポーツ界に転じ、Jリーグで日本初の選手引退後支援部署【Jリーグキャリアサポートセンター】責任者
を10年、日本オリンピック委員会でオリンピックマイナー競技選手やパラリンピック選手の現役続行支援
【アスナビ】を10年担当。その後日本バレーボール協会専務理事、東京2020オリパラ組織委員会サッ
カー宮城スタジアム会場責任者を務め、現在は、アスリートやプロスポーツチームを活用した、全国の地
方自治体のスポーツ地域創生コンサルティングに取り組んでいる。



坂田 賢二 さかた けんじ

社会人野球の内野手としてプレー。引退後、日本プロ野球OBクラブにてプロ野球選手のキャリアサポ
ート体制を構築した後、リクルートにて16年間、顧客のキャリア開発支援等に従事。現在は文化・スポ
ーツを通じた組織活性やプロ野球（NPB2球団）の育成サポートを担当する傍ら、東京ヴェルディ・パ
ンパにてU-15軟式野球の監督を務める。国家資格キャリアコンサルタント／GCDF-Japanキャリアア
ウンセラー／アスリートキャリアコーディネーター

【アドバンスドコース】

Day1		
①	「Can」視点の 職業探索を体感する	ケーススタディ（事前個人ワーク）
		ケーススタディ（グループワーク）
		全体共有 補足説明
②	「Will」を探る	参加者自身のWillを探る（個人ワーク→グループワーク）
		全体共有 補足説明
③	アスリートの取り組みを ビジネスシーンに'翻訳'する	実在アスリートにあてはめる（個人ワーク→グループワーク）
		全体共有 補足説明
④	まとめ	
Day2		
①	アスリート視点	アスリートとしてのキャリアトランジションの実例
②	指導者視点	指導者としてのキャリア支援の実例
③	企業視点	企業・雇用側のアスリートキャリア支援事例
④	まとめ	ACCとしての支援ポイント
Day3		
①	集団へのファシリテーション	自分の所属するチーム・団体等への啓蒙活動
②	ネットワーク形成と連携	企業人事・経営者とのネットワークの作り方 人材会社との連携の方法
③	まとめ	自分自身のキャリアステップ 継続学習の重要性
④	最終課題	課題発表

参考資料4) アスリートキャリアコーディネーター（ACC）育成プログラム

申込者・受講者属性および受講後アンケート結果 参照

【1】ACC ベーシックプログラム

【2】ACC アドバンスドプログラム

【3】パラアスリートキャリアサポート基礎知識・スキル習得講座

【次年度への課題】

令和6年度 ACC 育成プログラム実施実績（のべ受講人数）

ACC 育成プログラム 本年度受講人数合計 476 人

*** 内訳（ベーシックコース 206 人+アドバンスドコース 168 人+パラアスリートサポート 102 人）**

* 次年度以降もアスリートとの接点がある層を中心とした ACC の新規育成を行っていくとともに既に認定となっている ACC のレベルアップと活動をよりアクティブにしていく施策が必要と考えられる。とくにトライアルとして実施しているキャリアビジョン研修を加速させるために認定 ACC の中からトレーナーを育成することに取り組む必要がある。

本年度、認定 ACC の活動状況調査を行った。[参考資料5）認定 ACC 活動状況アンケート結果](#)参照

昨年度までの認定者 793 人のうち 643 人（81.1%）から回答を得た。

回答者のうち活動実績があると回答した人 460 人（回答者内シェア 71.5%）、今後活動を予定していると回答した人 78 人（同 12.1%）、活動実績・予定なしと回答した人 105 人（同 16.3%）となった。

今年度ホームページに ACC 認定者一覧を設けたが、

掲載を希望すると回答した人（371 人）の中で活動実績ありと回答した人 83.0%

掲載を希望しないと回答した人（272 人）の中で活動実績ありと回答した人 55.9%

と大きな差がある。

[参考資料5）](#) P5 参照

ACC としての活動内容については、「SCSC の活動に参加（SCSC サロン・セミナー等）」との回答が一番多い（回答者内シェア 49.6%）が、「アスリート・元アスリートと 1 対 1 の面談」を行っているという回答が 265 人（41.2%）、研修の企画・実施との回答も 43 人（6.7%）あった。

また、ACC が活動対象としている層は小学校から社会人に至るまで幅広く及んでいることが分かった。
[参考資料5）](#) P3 参照

これらの ACC の活動が事例として把握・共有できていないことが大きな課題であり、ACC の活動事例を収集し、ACC 間に共有することで、さらに ACC の活動を活発化させることができると考えている。

一方でこれらの ACC の活動の費用を誰がどのような名目で負担しているのか、またはボランティアベースのものなのかまでは調査できておらず、次年度以降の調査課題としたい。

②キャリアセンターの運営及び機能充実（ACCの活用）

計画)

- i) オープンコンテンツの充実
- ii) SCSCホームページとの連携強化
- iii) 実施事例・体制づくり（⇒ 協働プロジェクトでの実績参照）
- iv) マネタイズの検討

2) 実 績

SCSCの活動およびアスリートキャリアコーディネーターの理解促進のためSCSC HP上に下記コンテンツを設置。ACCの理解促進と実施イメージ喚起のための動画資料、ACCを取得している人たちがどんな人たちなのかがわかるようにするため、ACC一覧ページを新設した。

「アスリートキャリアコーディネーターの育成」コンテンツの設置

<https://sportcareer.mext.go.jp/activity/training>

「キャリア研修の開催（SCSC動画資料）」の設置

<https://sportcareer.mext.go.jp/activity/movie>

「ACC認定者一覧」の設置（前述）

https://sportcareer.mext.go.jp/members/acc_member

SCSC HPのドメイン移管に伴いSCSCキャリアセンターをSCSC HPの配下へ配置（8月8日実施）、さらにSCSC HPのリニューアルにともないSCSCキャリアセンターへの導線改善を図った。

ドメインの移管（8月8日実施）

SCSC HP <https://sportcareer.jp> ⇒ <https://sportcareer.mext.go.jp>

SCSCキャリアセンター <https://acc.sportcareer.jp> ⇒ <https://sportcareer.mext.go.jp/acc>

サイトリニューアル（2025年3月10日実施）

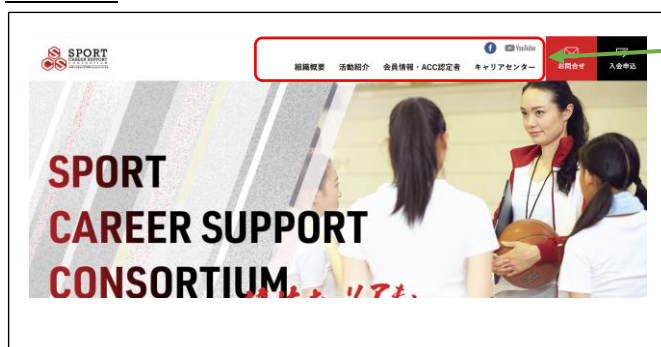
旧サイト



メニュー構成

- ・スポーツキャリアサポートコンソーシアム
- ・ロールモデルインタビュー
- ・最新会員一覧
- ・SCSC キャリアセンター
- ・SCSC 動画資料

新サイト



メニュー構成

- ・組織概要
- ・活動紹介
- ・会員情報・ACC 認定者
- ・キャリアセンター

新サイトでは、メニュー構成をシンプルにまとめ、項目ごとにサブメニューを表記する形とした。

- ・組織概要（SCSCとは／理念／長官メッセージ／会長メッセージ／運営委員一覧）
- ・活動紹介（ロールモデルインタビュー／ACCの育成／カンファレンスの開催／研修事例動画）
- ・会員情報・ACC認定者（最新会員一覧／会則／入会申込／ACC認定者）
- ・キャリアセンター（キャリアセンターとは／キャリアセンターログイン）

キャリアセンターの説明ページへの導線改善：

旧サイトでは、SCSCキャリアセンターへリンクするとすぐに「新規ユーザー登録・ログイン」の画面へと遷移したが、新サイトでは「キャリアセンター」メニューの中に「キャリアセンターとは」の説明ページを目立つ位置に配置し、理解促進および導線の改善を行った。



iii) 実施事例づくり

実施事例

本年度は、女子体操のジュニア（中学・高校性）から高校、大学のスポーツ強化部、実業団選手、野球の独立リーグのプロ選手まで幅広い層に向けキャリアワークショップを実施、さらに一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）との連携案件も進めることができた。

【令和6年度 キャリアプログラム実施一覧】

団体	対象	・テーマ等	実施日
高崎健康福祉大学 高崎高等学校	高校生 120名	部活動の中心として活動する高校2年生を対象に実施	9月6日
日本海リーグ (エス・アイ・ジェイ) (野球)	社会人	シーズン終了後、選手全員：富山サンダーバズ	9月23日
	計61名	シーズン終了後、選手全員：石川ミリオンスタース	9月24日
ジャパンリーグ (野球)	社会人 25名	ウインターリーグ実施期間中（12月10日）にキャリアワークショップ実施	12月10日
平成国際大学	大学生 (100名程度)	合同キャリア授業（スポーツ健康学部対象）1コマ	12月5日
		キャリアデー1コマ (合同キャリア授業を受講したスポーツ健康学部＋希望する運動学部学生が合流)	12月10日
		(合同キャリア授業を受講したスポーツ健康学部＋希望する運動学部学生が合流)	12月12日
レジックススポーツ (体操) (SCSC サロン7回)	中学生12名 高校生17名	レジックススポーツ 中学・高校生向け 社会人基礎力テスト＋リアル研修	12月14日
	大学生5名 コーチ19名	大学生向け・スタッフ向け 社会人基礎力テストのみ実施	*****
パナソニック コネクト	社会人 (実業団選手) 14名	企業所属アスリート（女子陸上選手＋野球部2名・バレー部1名） 社会人基礎力テスト＋リアル研修	1月16日
女子体操ジュニア ナショナル合宿	中学生16名 高校生2名	中学生・高校生向け 社会人基礎力テスト＋リアル研修	1月21日
	コーチ19名	社会人基礎力テストのみ実施	*****
東洋大学 (UNIVAS 連携)	大学生(1年生) 174名	強化部所属の大学1年生（この春から2年生）を対象に実施	3月12日

iv) マネタイズの検討

マネタイズに向けては、SCSC の HP リニューアルに合わせて ACC 認定者が希望すれば掲載ができる ACC 一覧のコンテンツに加えて、有料掲載企画および、アスリートのキャリアをサポートする企業を募り寄付、スポンサー等を受けた場合に記載できるコーナーのサイト機能の作成も完了している（有料掲載およびスポンサーの獲得は本年度は未実施）。

トライアル実施を行っているキャリアビジョン研修の有料化についても来期以降実施していく必要があると考えている。

アスリートのキャリア開発の費用負担をどのようなスキームで行うか、SCSCの組織の在り方も含めて方向性を決める時期に来ている。

【次年度への課題】

キャリアビジョン研修に対するニーズは着実に増加してきており、継続的な実施を希望するところも増えてきている。一方でオンラインを活用したACCへの個別相談の依頼は増えていない。

令和6年度SCSCキャリアセンター 研修・キャリア相談実施人数推移

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
オンライン相談件数	1		1	3	1	1					7
キャリア研修受講人数				181			154	32		174	541
合計	1	0	1	184	1	1	154	32	0	174	548
基礎力テストのみ							24	19			43
総合計	1	0	1	184	1	1	178	51	0	174	591

12月実施の平成国際大学（3回）は正確な人数把握ができず推定値100名とする

キャリア研修は、チームや所属団体の意思決定のもと実施されるのに対してオンラインでのキャリア面談は個々のアスリートの能動的なアクションがないと発生しない。

海外ではキャリアディベロップメントコーチの存在がラグビー等で広がりつつあるが、ACCが継続的にアスリートに伴走することの成果事例をつくる必要があると考えている。

そのためには、アスリートが自主的に相談する形ではなく、チーム、団体等の育成システムとして、定期的に面談するといった形でACCによる継続的な伴走のトライアルを行い、効果検証をする必要があると考えている。

③会員団体の発案にもとづくプロジェクトの推進

1) 計 画

◆協働プロジェクトは会員企業から募集し、実施プランを決定する

2) 実 績

会員団体との連携・協働プロジェクトについては、前述のキャリアセンターでの「実施事例」に記載の通り就学期のアスリートから社会人アスリートまで競技団体・会員企業と連携しながら実施することができた。(P27 令和6年度 キャリアプログラム実施一覧 参照)

本年度「キャリアビジョン研修」実施後に受講者にアンケートにご協力いただいた。

*各回のアンケートは **参考資料6) キャリアワークショップ受講後アンケート結果** 参照

各回のアンケートを

- ・＜社会人＞（82名）
- ・＜大学生＞（200名）
- ・＜高校生・中学生＞（130名）

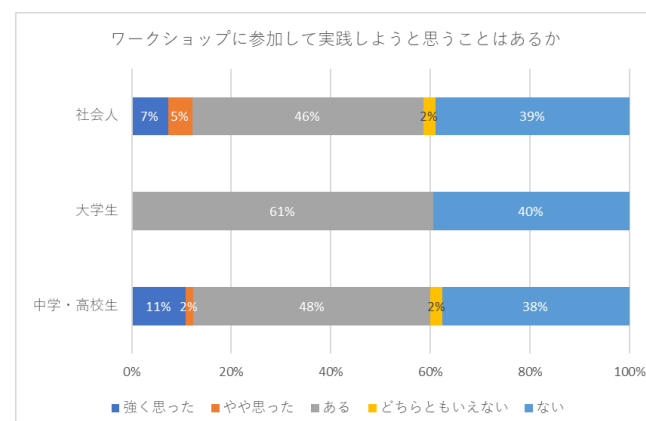
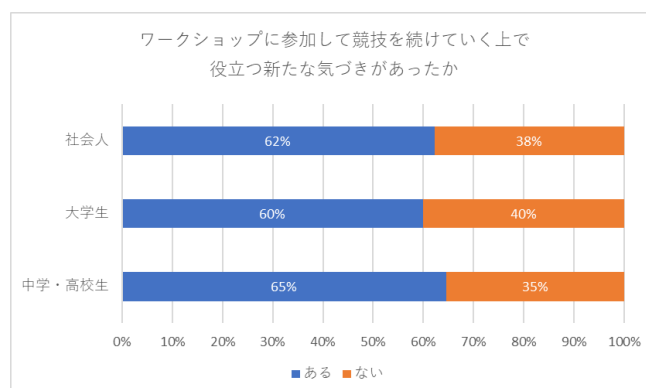
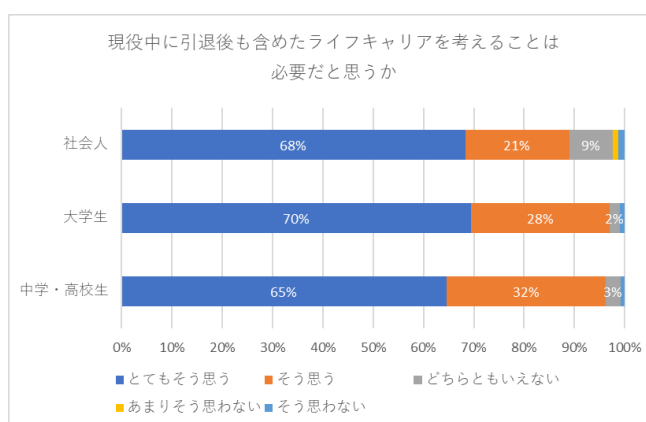
の3つのカテゴリーに分けて比較した。

「現役中から引退後を含めたライフキャリアを考えることの必要性」については、「とてもそう思う」「そう思う」の合計は＜大学生＞97.0%＜高校・中学＞96.2%となっているが、社会人は89.0%とやや低くなっている。

「ワークショップに参加して役立つ新たな気づきがあったか」という設問については、どのカテゴリーも6割程度が「ある」、4割が「ない」と回答している。

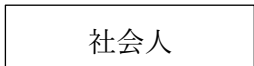
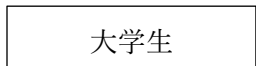
「ワークショップに参加して実践しようと思うことはあるか」との設問についても同様に6割が「ある」、4割が「ない」という結果となった。

行動変容につなげていくためにも単発に終わらせず、一定期間後に振り返りのセッションなどを継続的に行うことが必要と思われる。



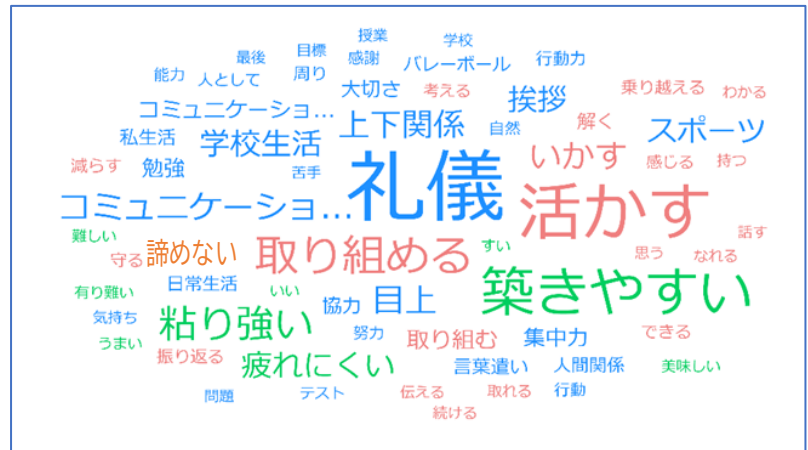
「スポーツに打ち込んできたことで得られたもの（学んだこと、身についたこと等）は、何ですか」という問いにフリーワードで回答いただいた言葉をテキストマイニングで表示した結果は下記となった。

高校生・中学生

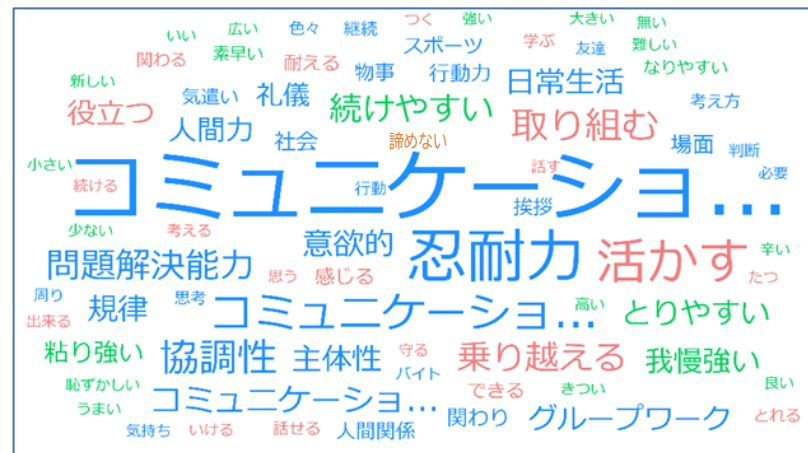


「スポーツを通じて得られたものが、スポーツ以外でも活かされていると感じることを具体的に教えてください。」という問いにフリーワードで回答いただいた言葉をテキストマイニングで表示した結果は下記となった。

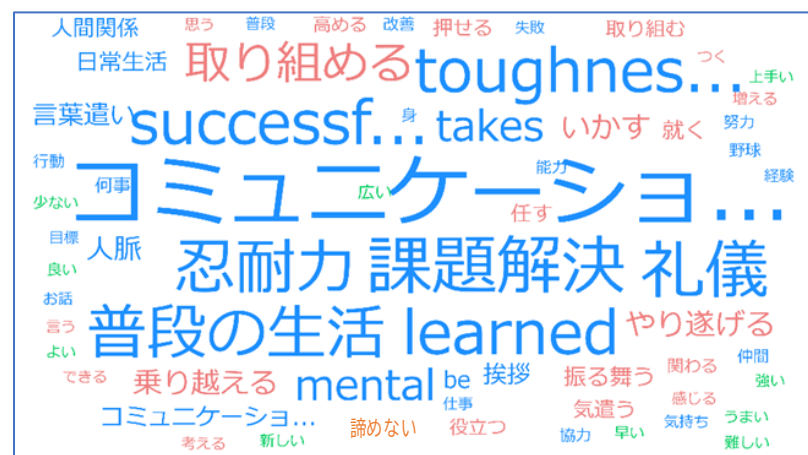
高校生・中学生



大学生



社会人



(4) 情報発信コンテンツの充実および専用ウェブサイトのセキュリティ強化

◆引き続きアスリートのロールモデルの充実を図るとともに、チームでのキャリア開発への取り組みやACCの活動事例などを取材・映像化し、発信していくことで個別事例として終わらせることなく、スポーツ界全体のムーブメントへとつなげていく。

1) 計 画

- i) ロールモデルのコンテンツ化・検索機能の追加
- ii) 啓蒙動画・研修実施事例動画コンテンツによる情報発信
- iii) 認定ACC・加盟団体からの情報提供
- iv) SCSC キャリアセンターでのセミナー告知等の情報発信
- v) カンファレンスの開催
- vi) 専用ウェブサイトのセキュリティ強化

2) 実 績

- i) ロールモデルのコンテンツ化・検索機能の追加

本年度以下の16名のアスリートを取材、ロールモデルコンテンツとしてHPへ掲載。

ロールモデルコーナーの記事は55人分まで蓄積できてきたこともあり、引退年代、競技種目や記事中のフリーワードでの検索機能を付加し、利用者が自身の参考となるアスリート事例を発見しやすくした。

【取材一覧】

No	お名前	競技	No	お名前	競技
1	田本 博子	女子ソフトボール	9	廣瀬 智靖	男子サッカー
2	奥 幸那	女子バドミントン	10	友井川 拓	男子ラグビー
3	喜熨斗 勝史	男子サッカー	11	山田 拓朗	パラ競泳
4	横山 雅美	女子バレーボール	12	東 千尋	アグレッシブインラインスケート
5	高瀬 克也	男子グランドホッケー	13	川越 広弥	男子陸上 400m ハードル
6	後藤 翔太	男子ラグビー	14	山辺 紗希	女子ビーチサッカー
7	桐谷 乃宇奈	女子フェンシング	15	比金 桃子	女子バレーボール
8	三木 萌子	女子サッカー	16	吉野 有香	女子サッカー

令和6年度ロールモデルページ新規掲載者一覧

諦めないこと、苦しみ悲しみを乗り越えて辿り着く場所がある



田本 博子

競技種目 ソフトボール
現職 教師 ※取材時

変わらない自分であるために環境を変える



奥 幸那

競技種目 バドミントン
現職 教師 ※取材時

なりたい自分を目指して全力で取り組みば必ず道は開ける。自分と仲間を信じることを諦めない事が大切



喜熨斗 勝史

競技種目 サッカー
現職 指導者等 ※取材時

諦めずにやってきたから今がある。アスリート経験の自信は必ず役に立つ



横山 雅美

競技種目 バレーボール
現職 指導者等 ※取材時

社会の問題を解決するため、社会をより良くしていくために



高瀬 克也

競技種目 グランドホッケー
現職 指導者等 ※取材時

スポーツアスリートは、職種を問わずどこに行っても絶対に通用する力がある



後藤 翔太

競技種目 ラグビー
現職 指導者等 ※取材時

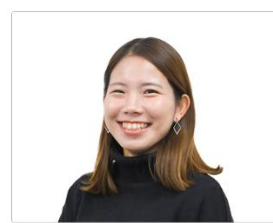
選手寿命は想像以上に短い。何をやりたいか



桐谷 乃宇奈

競技種目 フェンシング
現職 教師 ※取材時

現役のうちにフットワークよく動き回って人脈をひろめることが大事



三木 萌子

競技種目 サッカー
現職 会社員（スポーツ関連） ※取材時

現役時代にしっかりと人脈を作っておく。そしてセカンドキャリアに繋げていく



廣瀬 智靖

競技種目 サッカー
現職 会社員（スポーツ関連以外） ※取材時

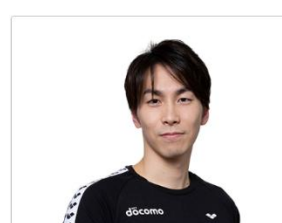
ラグビー以外の分野から学び、得たことのほうが、私自身のラグビー人生や"今"に大きく影響している



友井川 拓

競技種目 ラグビー
現職 指導者等 ※取材時

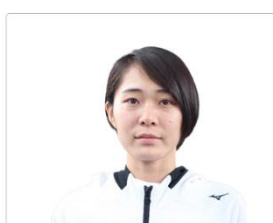
情熱さえあればトップアスリートは何でもできる



山田 拓朗

競技種目 パラ競泳
現職 会社員（スポーツ関連以外） ※取材時

スポーツは楽しいという気持ちで始めた時のことを忘れずに



東 千尋

競技種目 インラインスケート
現職 その他 ※取材時

現役アスリート時代から積極的な発信が必要。それが個性となり新しい繋がりを生む。



吉野 有香

競技種目 サッカー
現職 起業 ※取材時

アスリートとしての全盛期を人生の全盛期だとは思わない。人生の全盛期はまだこれから。



比金 桃子

競技種目 バレーボール
現職 会社員（スポーツ関連以外） ※取材時

トップに行けば行くほど自分自身で抱え込んでしまう。それだけは絶対に避けてほしい。



山辺 紗希

競技種目 サッカー
現職 会社員（スポーツ関連以外） ※取材時

後悔なく競技を続けてほしい。必ず報われる時が来る。



川越 広弥

競技種目 陸上
現職 教師 ※取材時

ii) 啓蒙動画・研修実施事例動画コンテンツによる情報発信

SCSC の活動でこれまでに作成した指導者向け映像および研修事例紹介の映像コンテンツを SCSC HP 上で発信。<https://sportcareer.mext.go.jp/activity/movie>

アスリートの主体性を磨くキャリア支援の重要性と指導者に求められる役割



 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム実践例① 水戸ホーリーホック（サッカー）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム実践例② レジックスポーツ（体操）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム実践例③ アスリートキャリアコーディネーター活動事例（NTTコミュニケーションズ）：D-Rocks（ラグビー）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム実践例④ 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（スケルトン）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム実践例⑤ 日本体操協会（新体操フェアリージャパン）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム実践例⑥ 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（スケルトン）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム⑦ 日本フットサル連盟（パドラーズ浦安）	
 キャリア支援事例 未視聴	キャリア支援プログラム⑧ 高崎健康福祉大学高崎高等学校	

8 事例を掲載

- 1) 水戸ホーリーホック（サッカー）
- 2) レジックスポーツ（体操）
- 3) NTT コミュニケーションズ D-Rocks（ラグビー）
- 4) 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（スケルトン①）
- 5) 日本体操協会（新体操フェアリージャパン）
- 6) 日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟（スケルトン②）
- 7) 日本フットサル連盟（パドラーズ浦安）
- 8) 高崎健康福祉大学高崎高等学校

iii) 認定 ACC・加盟団体からの情報提供

加盟団体（エス・アイ・ジェイ）からの依頼にもとづき日本海リーグ所属アスリートへのキャリア面談を担当する ACC 募集情報を ACC 認定者向けに広報。

奈良県スポーツ振興課でのアスリート向けキャリアセンター立ち上げにあたり、スタッフ募集情報を ACC へ提供。本年度 7 月 1 日付けに開設された「ならアスリートキャリアセンター」のスタッフとして ACC 認定者が採用されるに至った。

他、佐賀県 SAGA スポーツピラミッド推進グループ主催の SAGA スポーツピラミッド アスリートキャリアフォーラムの情報提供、会員団体 R-Body 主催セミナー情報の提供等を行った。

iv) SCSC キャリアセンターでのセミナー情報等

SCSC キャリアセンターのサイトを SCSC HP のサブディレクトリに置いたことで単独での告知はおこなわず、オープンな場である SCSC の HP 上での告知を行っていくこととした。一方でアスリートへダイレクトに情報を届けるために「アスリートキャリアサブリ（仮称）」という名称でアスリートのメール会員登録をスタートさせた。アスリートのキャリア開発に役立つ情報をメールマガジンの配信する体制構築を目指す。

v) カンファレンスの開催

実 績

本年度はキャリア形成の当事者である「アスリート」人材をメインターゲットとした企画として実施。アスリートがキャリア課題についてディスカッションを行うワークショップを組み込むなど新たな取り組みを行った。

【カンファレンスタイトル】

Athlete Career Challenge カンファレンス 2025

競技の枠を超えアスリートと共に考えるアスリートの未来

～ アスリートキャリアビジョンワークショップ ～

◆開催日時：2025 年 2 月 26 日（水）第一部 17:00～20:00 第二部 20:00-21:30

◆ライブ会場：東京ミッドタウン八重洲カンファレンス（4 階大会議室）

東京都中央区八重洲二丁目 2 番 1 号

◆オンライン：ZOOM・YouTube によるライブ配信

現地参加 172 名（アスリートエリア 49 名＋観覧エリア 91 名＋登壇者・関係者・運営委員 32 名）

オンライン ZOOM 参加 141 名 （参考数値：YouTube 視聴 608 名）

*カンファレンス詳細については、第Ⅲ章および参考資料 7)－2 カンファレンス運営業務報告書 をご参照ください。

vi) 専用ウェブサイトのセキュリティ強化

■サーバー・セキュリティについて

- ・ ISMAP 対応のサーバとして「さくらのクラウド」サーバ（仮想 4Core/4GB メモリ/SSD100GB）の利用を想定。
- ・ セキュリティ対策として Cloud One Workload Security の利用を想定。
不正プログラム対策機能/WEB レピュテーション機能/FW 機能/アプリケーションコントロール機能/
侵入防御機能/変更監視機能/セキュリティログ監視機能

■go.jp ドメインによるメール送受信の設定

- ・ sportcareer.mext.go.jp ドメインのメール送受信をおこなうためのメールサーバ設定を行う。DNS サーバは「さくらのクラウド」の DNS(アプライアンス)を利用するものとする。

■SCSC キャリアセンターの移管

- ・ SCSC のホームページの移管とセットで SCSC キャリアセンターについても移管を行う。

実 績

セキュリティ強化の対策は喫緊の課題であるため、サイトコンテンツ、機能は現状のままとして ISMAP に対応するサーバ、セキュリティ対策を行いドメインの移管を 8 月 8 日に実施した。また移管に際しては、キャリアセンターを SCSC HP のサブディレクトリに配置する形とした。

ドメインの移管（8月8日実施）

SCSC HP <https://sportcareer.jp> ⇒ <https://sportcareer.mext.go.jp>

SCSC キャリアセンター <https://acc.sportcareer.jp> ⇒ <https://sportcareer.mext.go.jp/acc>

さらに本年度は、サイトのコンテンツ充実、機能開発に取り組んだ。

- ・ 前述のロールモデルの充実に伴ってロールモデルコンテンツの検索機能の追加（前述）
- ・ A C C 認定者一覧および検索機能の新設（前述）
- ・ 運営委員一覧の新設
- ・ S C S C 入会申し込み導線の設置 等

2025 年 3 月 10 日にリニューアルを実施。

(5) 今後に向けた検討

計 画

1) 組織体制の検討

計画的な活動を安定的に行うため任意団体から一般社団法人または NPO などの法人化を引き続き継続検討

2) 財務面での検討

SCSC が将来自走するための財源として独自収入・外部資金の受け入れを検討
(ふるさと納税・クラウドファンディング等の手法も視野にいれる)

実 績

組織の在り方検討委員会を設置し、以下を検討。

⇒SCSC 会則の付則として寄附金等取扱規程を定めているが、企業からの協賛・スポンサードを受ける企画の検討、前述のアスリート採用積極企業などの情報掲載・認定 ACC 掲載についても有料化の可能性を検討した。

⇒ACC 育成事業については資格認定および更新の有料化のシナリオを検討。

3) 役割についての検討

◆キャリアサポートとしての機能

- ・競技・団体横断のキャリアセンター機能・相談窓口常設
- ・アスリートキャリアコーディネーターの継続育成と配置
- ・ビジネスパーソンとしてのトレーニング機能・コンテンツの提供

◆デュアルキャリア教育の推進

- ・各 NF、統括団体が主催するアスリート向けキャリア教育のサポート
- ・アスリート向けキャリア教育プログラムの最新研究・開発
- ・指導者・保護者向けキャリア教育プログラムの開発

実 績

デュアルキャリア教育の推進に関しては昨年度に引き続き中央競技団体や加盟団体との連携による研修事例を積み上げることができた。本年度もトライアルとしての位置づけであり、受益者（研修受講者）にとっては費用負担がなく実施できているが、今後拡大していくにあたっては認定 ACC から講師の育成、実施コスト負担をどうするかが引き続きの課題として残っている。

キャリアサポートとしての機能については、濃淡はあるが、アスリートキャリアコーディネーターがそれぞれの活動の中で面談等を実施していることが認定 ACC 活動状況アンケート（参考資料 5）を通じて見えてきた。

今後は SCSC として、会員団体との協働プロジェクトの形で一定期間にわたってアスリートに ACC が伴走する事例をつくり、ACC のカウンセリングの有用性を検証することに取り組む必要がある。

また本年度 UNIVAS との連携も進みつつあり、大学でのアスリート支援に ACC を活用するスキームを作ることも視野にいれていくことを考えている。

Ⅲ. Athlete Career Challenge カンファレンス 2025 の開催

スポーツ庁委託事業「令和6年度スポーツキャリアサポート支援事業」の一環として、SCSCが主催し、「Athlete Career Challenge カンファレンス 2025 競技の枠を超えアスリートと共に考えるアスリートの未来 ～ アスリートキャリアビジョンワークショップ ～」を開催した。

1. カンファレンスの概要(実施概要については参考資料7)－2 カンファレンス運営業務報告書参照)

本カンファレンスは以下を開催の目的として掲げ、運営委員会にて企画が構想・承認された。

<実施目的・狙い>

◆アスリートの参加を広く促し、

- ・アスリート自身にキャリアオーナーシップの理解促進を図る
- ・アスリートに SCSC・ACC の認知向上を図る
- ・競技間の情報共有ができる場を提供する
- ・SCSC 未加入の NF の加入のきっかけとする
- ・SCSC の情報をアスリートに届けるネットワークを構築する

⇒ 各競技団体のアスリート（できるだけアスリート委員）を集める場としたい

各競技団体のアスリート・アスリート委員と SCSC のネットワークを構築するきっかけとする

<参加し易さ>

⇒ 開催日時の変更 例年土曜日午後開催

⇒ 開催時間の短縮 例年3時間30分

⇒ ハイブリッド開催：リアル会場：アクセスしやすい場所を選定（東京駅直結の会場）

：オンライン会場：アスリートは ZOOM ミーティング

<構成>

⇒ セミナー形式だけではなく、ディスカッション型のインタラクティブな企画を盛り込む

⇒ アスリート間のネットワークづくり、情報交換等の時間を充実させる

これらの目的・狙いを達成するため、本年度は例年とは大きく異なる形でのカンファレンス企画を行った。

主な変更点： 開催日程 例年3月初旬土曜日午後開催 ⇒ 2月下旬平日夜開催

開催時間 例年3時間30分程度 ⇒ 第一部・二部制（第一部のみの場合3時間）

主対象 指導者・アスリート・ACC等 ⇒ アスリート・アスリート委員（現役・引退含む）

Program トークセッション中心（セミナー型） ⇒ ワークショップ型（ディスカッション型）

交流セッション 従来は名刺交換会（30分程度） ⇒ 情報交換会として1.5時間設定

○タイトル Athlete Career Challenge カンファレンス 2025
競技の枠を超えアスリートと共に考えるアスリートの未来
～アスリートキャリアビジョンワークショップ～

◆開催日時：2025年2月26日（水）第一部 17:00～20:00 第二部 20:00～21:30

◆ライブ会場：東京ミッドタウン八重洲4階大会議室（東京都中央区八重洲二丁目2番1号）

◆オンライン：ZOOM ミーティング・YouTube によるライブ配信

ユニバーサル対応のため YouTube 配信には手話通訳を導入

○プログラム概要

【第一部】

【開会】

- ・室伏 広治 氏（スポーツ庁長官） 開会あいさつ・スポーツ庁活動
- ・高橋 義雄（SCSC 会長） SCSC 活動について

【プログラム1】「アスリートのキャリア課題とは何なのか」

○ファシリテーター

- ・松田 丈志 氏（JOC アスリート委員会委員長/セガサミーホールディングス株式会社）
- ・村上 茉愛 氏（公益財団法人日本体操協会 強化本部長）

○登壇者

- ・小林 慎一朗 氏（一般社団法人日本プロサッカー選手会 マネージャー）
- ・田崎 博道 氏（公益財団法人日本陸上競技連盟 専務理事）

【プログラム2】「アスリートと考えるキャリアビジョンワークショップ」

○ファシリテーター

- ・川島 隆一 氏（川島事務所代表/GCDF-Japan キャリアカウンセラー）

○登壇者

- ・岡崎 美穂 氏（有限会社レジックススポーツ代表取締役）

【プログラム3】「アスリート人材に期待するチカラ」

○ファシリテーター

- ・松田 丈志 氏（JOC アスリート委員会委員長/セガサミーホールディングス株式会社）
- ・村上 茉愛 氏（公益財団法人日本体操協会 強化本部長）

○登壇者

- ・中村 仁 氏（ソニー生命保険株式会社 品川 LPC 第4支社第一営業所 所長）
- ・岡本 章世 氏（イオンモール株式会社 人事統括部 採用・育成部 部長）
- ・近藤 裕 氏（株式会社リクルート HR エージェント Division Vice President）

【第二部】交流セッション

スポーツ庁委託事業「令和6年度スポーツキャリアサポート支援事業」

ゲストファシリテーター
公益財団法人日本体操協会
強化本部長
村上 茉愛 氏

ゲストファシリテーター
JOCアスリート委員会
委員長
松田 丈志 氏

Athlete Career Challenge カンファレンス 2025

競技の枠を超えアスリートと 共に考えるアスリートの未来

— アスリートキャリアビジョンワークショップ —

第一部 | PROGRAM 01 アスリートのキャリア課題とは何なのか



一般社団法人日本プロサッカー選手会
マネージャー
小林 慎一朗 氏

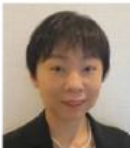


公益財団法人日本陸上競技連盟
専務理事
田崎 博道 氏

第一部 | PROGRAM 02 アスリートと考えるキャリアビジョンワークショップ



ファシリテーター
川島事務所代表/
GCDF-Japanキャリアアカウンセラー
川島 隆一 氏



有限会社レジックススポーツ
代表取締役
岡崎 美穂 氏

参加アスリートによるグループディスカッションをおこないます
(ライブ配信(ZOOM)でご参加の方はZOOM上でグループディスカッションをおこないます)

2025年 **2月26日** 水

【第一部】17:00～20:00 【第二部】20:00～21:30

開催場所 東京ミッドタウン八重洲 4階大会議室
東京都中央区八重洲二丁目2番1号

参加費無料 リアル・オンライン
での開催になります

▶お申込みについては裏面をご覧ください。

主催 |  スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

 SPORT
CAREER SUPPORT
公益財団法人日本オリンピック委員会
公益財団法人日本バラスポーツ協会
公益財団法人日本スポーツ協会

協力 | 公益財団法人日本オリンピック委員会
公益財団法人日本バラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会
公益財団法人日本スポーツ協会

第一部 | PROGRAM 03

アスリート人材に期待するチカラ

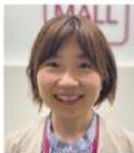
ソニー生命保険株式会社



品川LPC 第4支社第1営業所
営業所長

中村 仁 氏

イオンモール株式会社



人事統括部 採用・育成部
部長

岡本 章世 氏

株式会社リクルート



HRエージェントDivision
Vice President

近藤 裕 氏

第二部 | 交流セッション ※ライブ配信での開催(ZOOM)でも実施いたします

タイムスケジュール 【第一部】17:00~20:00 【第二部】20:00~21:30

- 17:00 ● 開会挨拶
- 17:05 ● スポーツ庁事業説明
- 17:10 ● 第一部 | PROGRAM 01 アスリートのキャリア課題とは何なのか
- 18:00 ● 第一部 | PROGRAM 02 アスリートと考えるキャリアビジョンワークショップ
- 19:10 ● 第一部 | PROGRAM 03 アスリート人材に期待するチカラ
※YouTube配信は20:00で終了となります
- 20:00 ● 第二部 | 交流セッション
- 21:30 ● 閉会

お申込みはコチラ

下記サイトまたは二次元バーコードよりお申込みください。
※実施概要をお読みのうえ、お申込みフォームへお進みください

【サイトURL】 <https://sportcareer.mext.go.jp/2135/>

申込締切

【リアル(会場)参加の場合】2月16日(日)

【オンライン参加の場合】2月23日(日)



スポーツキャリアサポートコンソーシアムとは



スポーツキャリア
サポートコンソーシアム 会長
高橋 義雄 氏



スポーツ庁
長官
室伏 広治 氏

アスリートが安心してスポーツに取り組むことができるキャリア形成の環境を整備するため、スポーツ庁委託事業「スポーツキャリアサポート推進事業」の一環として「スポーツキャリアサポートコンソーシアム」が2017年2月に創設されました。本コンソーシアムはスポーツ界、教育界、経済界などが連携して、アスリートのキャリア課題について、検討、解決案を提案するため会員が保有する資源や情報を共有しながら、連携・協働・支援を促進することを目指しています。

現在、産学官連携組織として126団体が加盟しています(2024年12月末現在)。



スポーツキャリアサポートコンソーシアム事務局

E-mail:sportcareer@futuredesignlab.jp / TEL:03-6222-9855

当事務局の運営は、スポーツ庁令和6年度「スポーツキャリアサポートコンソーシアムの運営」事業です。

主催:スポーツキャリアサポートコンソーシアム 受託事業者:株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 運営:株式会社MPandC

2. 申込・参加状況

本年度は、各中央競技団体に対してスポーツ庁・参事官（民間スポーツ担当）付・競技スポーツ課・健康スポーツ課 障害者スポーツ振興室の連名で下記の参加依頼を行っていただいた。

各中央競技団体 御中

スポーツ庁
参事官（民間スポーツ担当）付
競技スポーツ課
健康スポーツ課 障害者スポーツ振興室

令和6年度アスリートキャリアチャレンジカンファレンス開催に関する周知 及び当カンファレンスへの貴団体アスリートの参加協力をお願い

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

スポーツ庁では、2017年より「スポーツキャリアサポートコンソーシアム」を立ち上げ、アスリートのキャリア形成における課題を解決し、未来への道筋を共に描く取り組みを進めてまいりました。この度、コンソーシアム主催のカンファレンスを、以下の通り開催する運びとなりました。

（協力：公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会）

このカンファレンスは、アスリート自身が抱えるキャリアへの不安や課題感、そして必要としているサポートを率直に共有していただき、同時に競技で培った力を社会とどう結びつけていくかを一緒に考え、新たな可能性を探る機会にしたいと考えております。

スポーツ庁は、キャリア形成について現役時代から向き合うことが競技力の向上にもつながるとの信念のもと、こうした場をアスリートの皆さんと共に作り上げ、競技を超えたネットワークの中で新しい知見や視点を共有し合いたいと願っています。

特に、各中央競技団体のアスリート委員（現役・引退問わず）の参加は、皆様のご意見やご経験が、本キャリアサポート事業をより深く、実効性の高いものへと導いてくださると確信しております。

つきましては、貴団体のアスリート委員の方々をはじめ、アスリートの皆さんへの本カンファレンスの周知とご参加をお願い申し上げます。

申込受付にあたって本年度はリアル会場を参加者間でのディスカッションを行うアスリートエリアと視聴のみの観覧エリアに、オンライン会場もリアル会場と同様にディスカッションに参加可能な ZOOM ミーティングエリアと視聴のみの YouTube の 4 つのエリアに分けて受付を行った。

申込数は下記の通り。リアル会場のアスリートエリアは目標値には届かなかったが、全体では会場キャパシティを超える申し込みを集めることができた。

区分	目標	申込数
リアル会場アスリートエリア	75 名	59 名
リアル会場観覧エリア	75 名	106 名
ZOOM 参加エリア	***	218 名
YouTube 視聴エリア	***	230 名
合計		613 名

当日の参加状況はエリア毎に下記となった

項目	エリア区分	定義	申込	参加数
当日参加	アスリートエリア	グループディスカッション参加エリア	59 名	49 名
	観覧エリア	会場オブザーブエリア	106 名	91 名
	登壇者・関係者エリア	登壇者および登壇関係者・運営委員	***	32 名
現地参加者計				172 名
当日 WEB 参加 (zoom)	オンライン参加エリア	ZOOM ミーティング参加エリア	218 名	141 名
現地 + ZOOM 計				313 名
当日視聴 (youtube)	オンライン視聴エリア	視聴のみエリア (同時最大視聴者数)	230 名	608 名 (参考値)

現地参加計 172 名 + オンライン参加 ZOOM141 名 = トータル 313 名

今回の集客のメインとなるアスリートは、リアル会場と ZOOM エリア合計で現役 38 名、引退・指導者 101 名 合計 149 名となった。

区分	当日参加数	(内アスリート人材)	
		現役	引退・指導者
リアル会場アスリートエリア	49 名	15 名	34 名
リアル会場観覧エリア	91 名	1 名	5 名
ZOOM 参加エリア	141 名	22 名	62 名
合計	282 名	38 名	101 名

アスリート委員の参加状況

今回テーマの1つであった競技団体のアスリート委員の集客については、下記の通り 20 競技団体のアスリート委員に参加いただくことができた。

No	所属団体	リアル会場	オンライン会場
1	公益財団法人日本陸上競技連盟	2	1
2	公益財団法人日本柔道連盟	1	
3	公益財団法人日本体操協会	1	
4	公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟	1	
5	公益社団法人日本ホッケー協会	1	
6	一般財団法人フットサル連盟	1	
7	公益財団法人日本セーリング連盟	2	
8	公益財団法人日本ラグビーフットボール協会	1	2
9	公益財団法人日本相撲連盟	1	1
10	公益社団法人日本カヌー連盟	2	
11	公益財団法人日本水泳連盟	1	
12	公益社団法人日本クレ射撃協会	1	
13	公益財団法人日本ライプセービング協会	1	
14	公益財団法人日本スケート連盟（フィギュア）	1	
15	公益財団法人日本テニス協会		1
16	公益財団法人日本卓球協会		1
17	公益社団法人日本空手協会		1
18	公益財団法人全日本弓道連盟		1
19	公益財団法人日本アイスホッケー連盟		1
20	公益財団法人日本レスリング協会		1

*JOC アスリート委員含む

本年度は、これまでキャリアのテーマでアプローチすることが難しかったアスリート自身の集客に取り組んだ。

公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会、公益財団法人日本スポーツ協会に協力いただけたこと、JOC アスリート委員の方々と連携できたことにより、現役・引退を含め多くのアスリートに参加いただくことができた。また中央競技団体関係者にも参加いただくことができ、各競技団体・アスリート委員との関係構築をつくっていく足がかりとなるイベントとすることができた。

3. 参加者のカンファレンス評価

アンケート回答者の属性

本年度はリアル会場をアスリートエリアと観覧エリアに分け、オンラインも参加できる ZOOM 会場と視聴のみの YouTube 視聴の 4 つのエリアに分けて実施した。アンケート回収数は各エリア別に下記のとおり。

エリア区分	参加者	アンケート回答数
リアル会場アスリートエリア	49 名	34 名
リアル会場観覧エリア	91 名	40 名
ZOOM 参加エリア	141 名	114 名
YouTube 視聴エリア	***	17 名
合計		205 名

カンファレンスの評価（アンケート結果より）

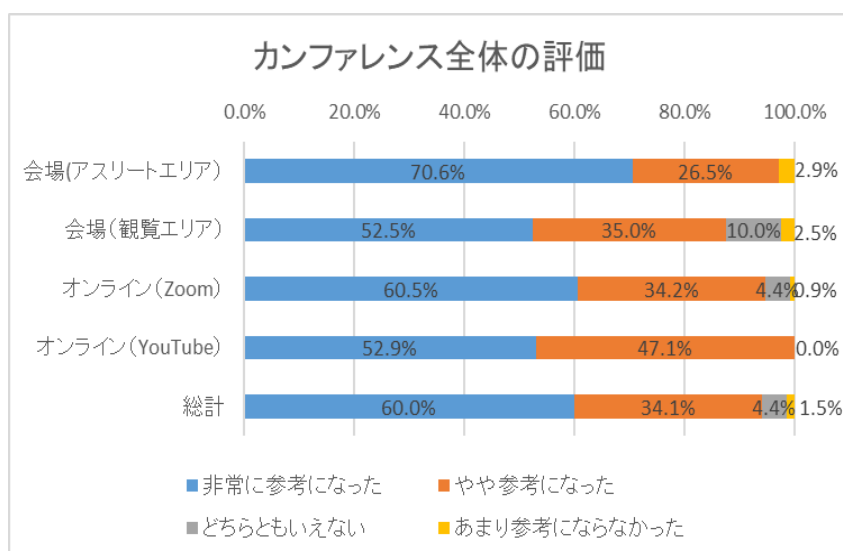
以下、カンファレンスに関する評価を参加エリア別にみていく。

カンファレンスの全体評価は、「非常に参考になった」60.0%、「やや参考になった」34.1%の合計は 94.1%と高い水準となった。特にアスリートエリア参加者は、ポジティブな評価が 97.1%となっている。

カンファレンス全体評価

全体評価は、
「非常に参考になった」 60.0%
「やや参考になった」 34.1%
計 94.1%と高い水準と言える。

特にアスリートエリア参加者の
評価が高いことがわかる。



参加エリア別プログラム別評価

参加エリア別に各プログラムの評価を比較してみた。

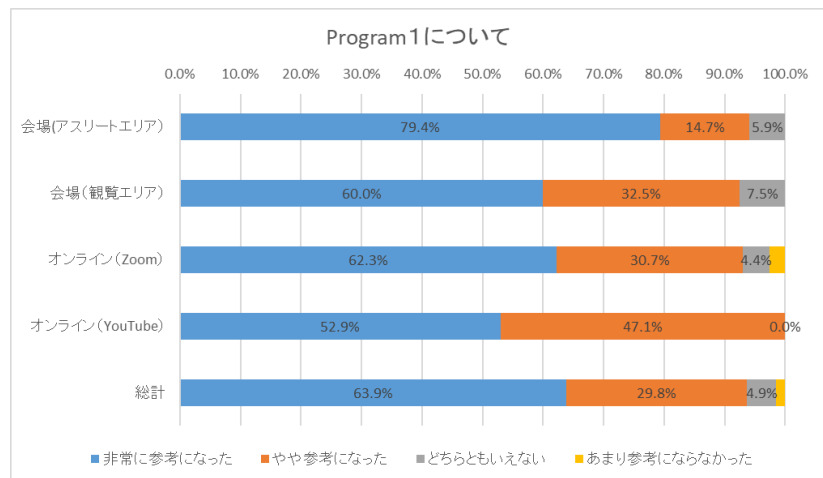
すべてのプログラムにおいてアスリートエリアで参加した層の評価が高いことがわかる。

プログラム2は、アスリートエリア参加者のディスカッションを取り入れたワークショップとしたため、観覧エリアでの参加者については、中途半端な時間となってしまった。

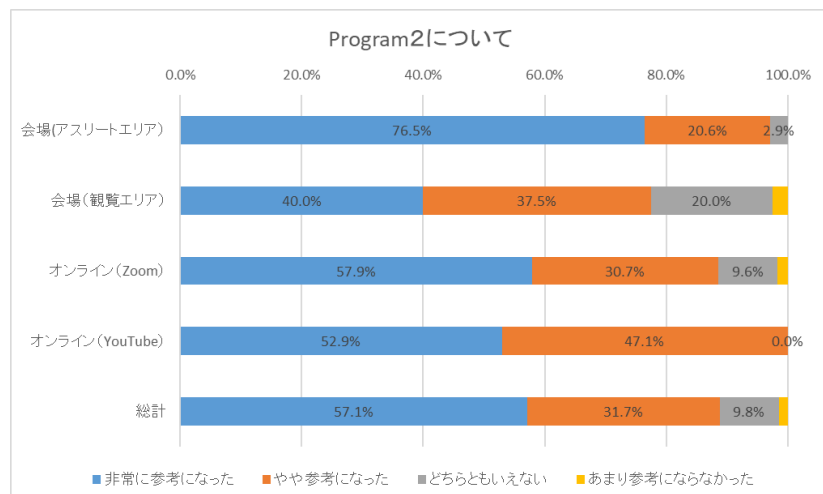
オンライン（ZOOM）参加者は、ブレイクアウトセッションでディスカッションの時間となっているが、プログラム2の評価が高くはなっていない。

これはグループによってディスカッションの質、活発度に大きくばらつきがあったことも影響していると考えられる。

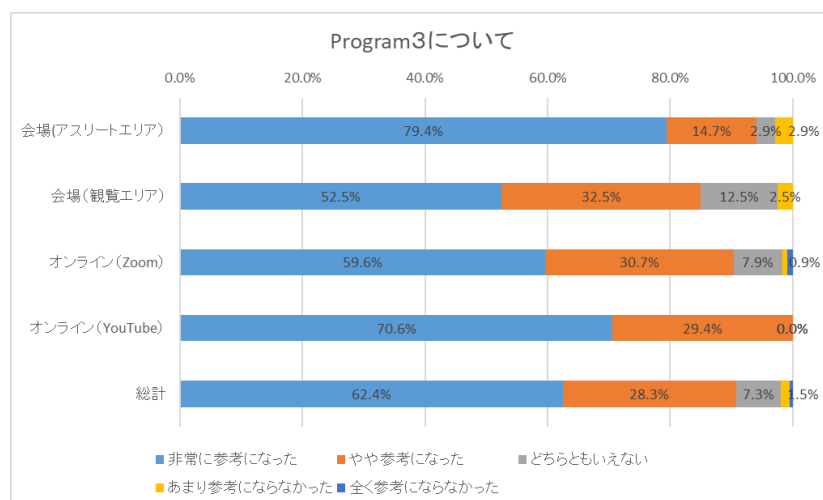
プログラム1 アスリートのキャリア課題とは何なのか



プログラム2 アスリートと考えるキャリアビジョンワークショップ



プログラム3 アスリート人材に期待するチカラ



参加エリアごとのプログラム評価

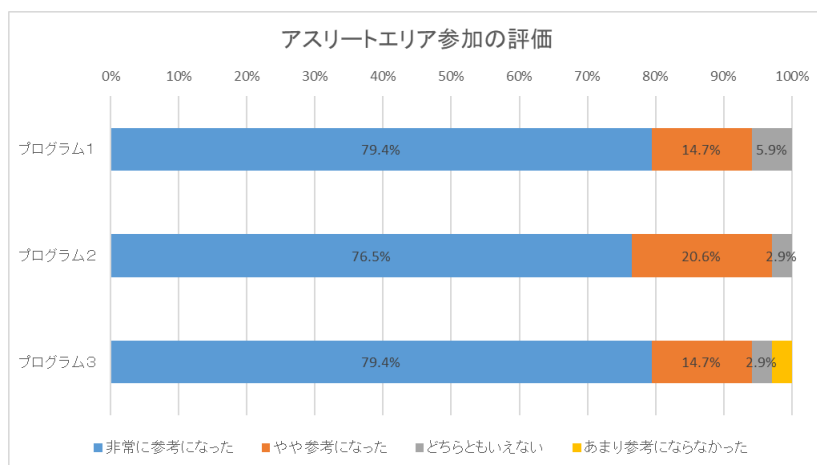
アスリートエリア参加者

アスリートエリアでの参加者は、すべてのプログラムの評価が高いが、やはりプログラム2のワークショップが

「非常に参考になった」76.5%

「やや参考になった」20.6%

計97.1%と一番高くなっている。プログラム1と3についてはほぼ同様の評価となった。



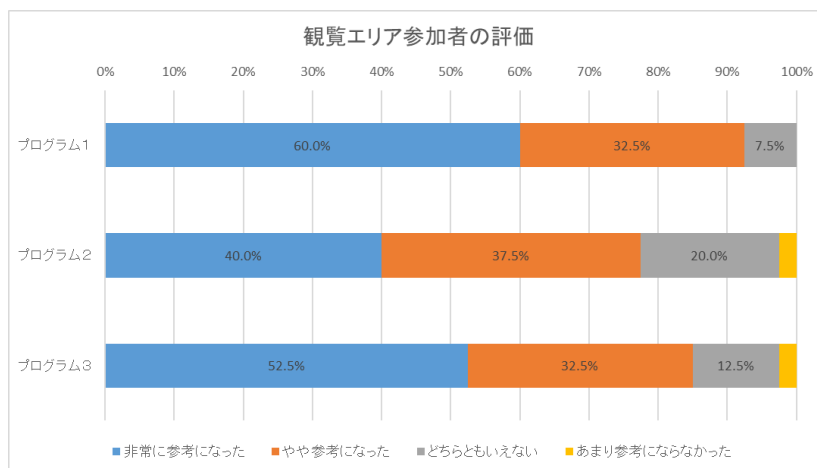
観覧エリア参加者

観覧エリアでの参加者の評価は、

プログラム1

プログラム3

プログラム2の順となっている。やはり前述のようにプログラム2については議論に参加することは出来ず、各グループの議論内容も聞くことができなかったため低い評価となっている。



ZOOM 参加者

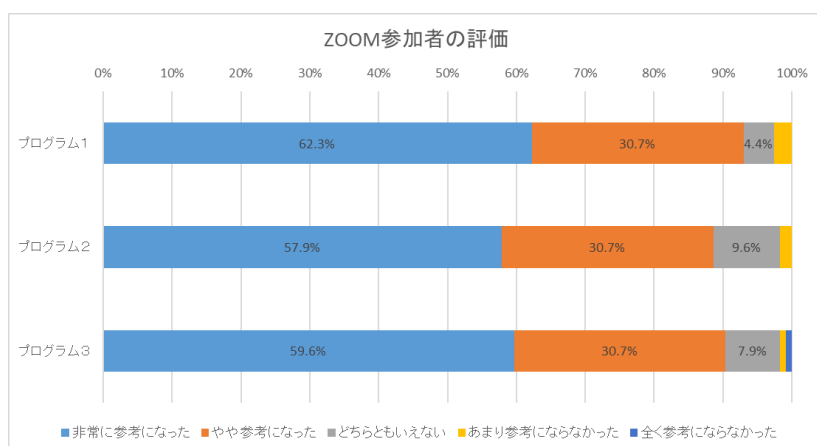
ZOOMでの参加者の評価も、

プログラム1

プログラム3

プログラム2の順となっている。

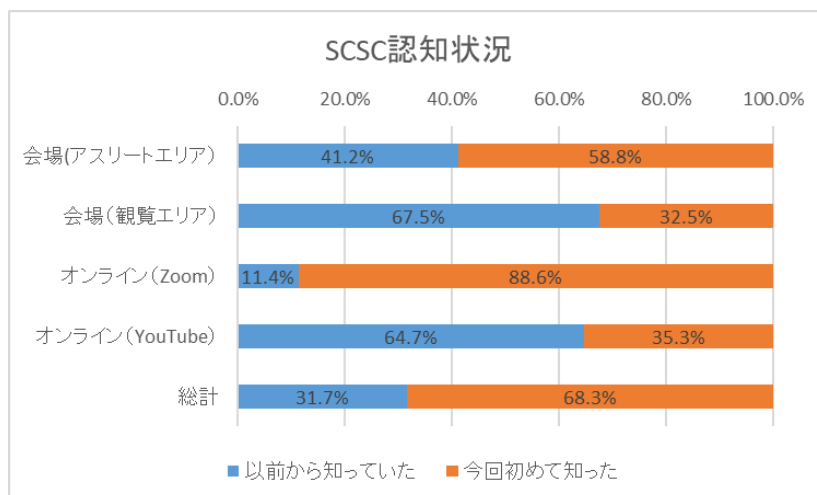
ZOOM参加者は、プログラム2での議論を行う時間がグループによってかなり差がでたことが影響していると考えられる。



参加エリア別 SCSC 認知状況

参加エリア別に SCSC の認知度を見てみるとアスリートエリアでの参加者および ZOOM での参加者に SCSC が認知されていないことがわかる。

この2つのエリアはアスリート・指導者を中心としたエリアであり、今回のカンファレンスがアスリートに対して SCSC の認知拡大に貢献していることがわかる。

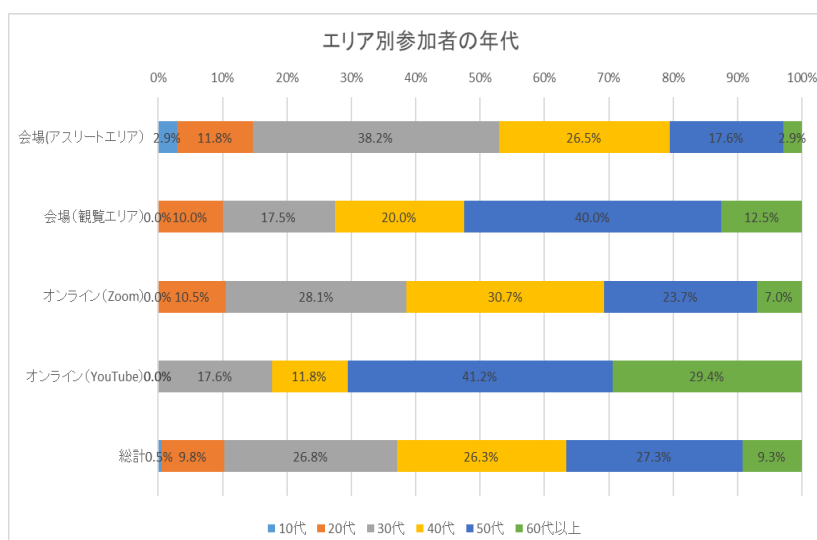


参加エリア別年代分布

参加エリア別に参加者の年代シェアを見ると

アスリートエリアは 30 代までで過半数をこえ 40 代まで含めると 8 割近くに達している。同様に ZOOM エリアも 30 代までで 4 割、40 代まで含めると 7 割近くとなっている。

本年度アスリートにターゲットを絞った集客の効果と言える。



プログラムの評価全体コメント

本年度のカンファレンスでは、アスリート自身が自分事としてキャリア課題に向き合うことをテーマとした。そのため初の試みとしてアスリートが競技の枠を超えてキャリア課題についてディスカッションするプログラムを設定した (Program 2)。また、他競技のアスリートや ACC、企業人事とのネットワークづくりの場として第二部に交流セッションを配置した。アンケート結果からもアスリートエリアでの参加者の満足度は、Program2 が一番高い結果となった。

また、各グループでのディスカッションで出た意見は下記の通り。

設問①：アスリートのキャリアに関して問題だと思うことは？（原文まま掲載）

グループ	各グループからの意見
A	アスリートキャリアで培ってきた能力についての自己理解の不足と、受け皿となるキャリア先、情報の少なさ。
B	現役アスリートはキャリアの課題を感じていない、 認識していないことが課題
C	限定された世界なので社会との接点が薄い。 アスリートに教育の仕組みを作った方がよい、システムとして。
D	プロスポーツと、所属企業選手のキャリアや経済に対する不安
E	アスリートの問題というより、社会がアスリートを受け入れる姿勢と、アスリートが社会に出ていくときの心理的安全性が低い。
F	大学から社会人になって続ける感覚がない。キャリアというキーワードに敏感。 部活の延長だと教員のアドバイスのみになり可能性が広がりにくい。就活の時間がない。
G	引退する時に次に何をすればいいのか、何が向いているのかわからない キャリアに不安がある選手が多く、大学卒業時に競技を離れてしまう課題がある 引退しトランジションをしても競技時代の成功体験や活躍ほどの達成感を得られない
H	フルタイム → プロ化 → 不安定さが増した → (セカンド)キャリアについて → マイナー競技でビジョンがない → もともと兼業が多い → 競輪に行く 会社が大学の大会をサポートしている → 大卒と高卒選手でビジョンが違う
I	セカンドキャリア
J	社会に出た時の自分の能力・特徴、そしてその活かし方が明確でないこと。 競技中は指導者によって目標や練習方法などもきめられているので、自分で考える力が低くなっている。 → 自己分析もわからない
K	トップを目指している選手ほど競技意外のキャリアを考えることが少ない。 一つの競技に専念していると視野が狭い。
L	引退後、迷子になる。やりがいや生きがいを見出せない。 キャリアカウンセリングを経て、自分史を振り返り気づきがあり、大切にしている軸が見えたことでやりがいを感じるようになった。

設問②：問題の解決のために必要なことは？

グループ	各グループからの意見
A	自己分析と場づくり（出席） 自己分析と他の業界と関わる。（色んな人と繋がる）
B	アスリート同士の競技を超えた横の繋がりや関係強化。アスリートの意識や行動によってこれから差がついてくるのではないか。
C	大学とかシステムとしてしくみを作るとよい。 ・親から、指導者からの助言 ・選手としての自己理解させる（ための周囲の助言）
D	サポート体制とアスリートのすれ違いの解決のために、お互い歩み寄る努力をする事。 サポート体制がある事の認知を広げる事、アスリート自身が、情報をとりに行くこと
E	意識を変える。外の世界を知る。
F	現役中の有限の目標、引退後の無限の目標を明確にする。 やりたいこと、好きな事をノートに書きまくる。 やり方、考え方をサポートする。 スポンサー企業からのことキャリア研修など。
G	指導者など支援者のスキルアップ(社会との繋がりが乏しいのは競技全体の課題) 成功したアスリート(競技毎に指標設定)→引退後ゆかりのある自治体で●年働くプログラム (競技普及、地元貢献、社会と繋がりながらキャリアを考える期間に)
H	大卒後にプロにいかない選手が増えている →競技を続けることの魅力発信、アドバイスが必要 →早い段階から人生と競技について考える プラス面では売り手市場である&転職しやすい 指導者がキャリアに関する視点を持つ 俯瞰力をつける (いい意味で)アスリートとしての特別感を持たない
I	企業側がアスリート側に業務内容や入社条件を提示してほしい。
J	アスリート自身は競技の枠を超えた時に社会に対してどう貢献できるのか、謙虚に考える姿勢を持つこと。 また、競技中から競技以外の視野を広げる。違う視点を持つように意識する。 言われたことに対して疑うという視点を持つ。 競技以外の自分の人生・キャリアの目標を考える。 環境面では競技中から指導者が練習方法など与えるだけでなく、選手自身に考えさせる指導をする。 ユースの時からキャリア指導。
K	トップアスリートほど競技に専念しているため競技外の情報を取り入れようとしないことが多いと感じるので協会がキャリアのセミナーを開いて強制的でもきっかけを作ってあげる必要がある。 アスリート自身が考えること、指導者は考えさせることをし、主体性を持たせ自身で考える力を身に付ける必要がある。
L	日本人の意識を変えていくこと。トップ、指導者からキャリアについて学び話しやすい環境を作ることが大事。

3. カンファレンスのまとめと今後の課題

本年度は、キャリア課題の当事者である「アスリート」に焦点を当て、カンファレンスを構成した。これまでカンファレンスでは、主に個別事例を取り上げる形が主だったが、本年度のプログラム1では、「アスリートのキャリア課題とは何なのか」というテーマで一般社団法人日本プロサッカー選手会がこれまで取り組んできたJリーガーのキャリアアトランジションについてデータに基づいた話をいただいた。また日本陸上競技連盟からは連盟として大学生向けに行っているライフスキルプログラムの導入経緯、実績など中央競技団体としての取り組み事例を取り上げた。

プログラム2は、「アスリートと考えるキャリアビジョンワークショップ」と位置づけ、キャリアをテーマにアスリートによるディスカッションを行った。異なる競技、現役、引退といった異なる環境・異なるライフステージのメンバーでのディスカッションとなったが、アスリートエリアでの参加者の評価は、このプログラム2が一番高いものとなった。

一方で観覧エリアでの参加者は、ディスカッションに参加できないこともあり、評価としては若干低くなっている。

オンライン参加者は、ZOOMでのブレイクアウトセッションで議論の場としたが、グループによってかなりばらつきがでてほとんどディスカッションが行われないグループもあったようで運営面での課題が残った。

プログラム3は「アスリート人材に期待するチカラ」というテーマで、アスリート人材の中途採用に取り組む企業としてソニー生命保険株式会社、イオンモール株式会社、株式会社リクルートに登壇いただいた。参加アスリートからは、企業がアスリート人材にどういったチカラを期待しているのかが具体的に分かった、社会人アスリート向けの「求人情報」のプラットフォームがあったらいいといった意見がでるなど関心の高さがうかがえた。

第二部では、リアル会場の参加者間での交流セッションの時間とし、情報交換、名刺交換等の交流の機会を設定した。競技の枠を超えたアスリート間の交流のみならず、観覧エリアのACCやSCSC会員企業等との交流もみられ、全体として実りの多いカンファレンスとなった。

課 題)

- ・年一回のカンファレンスで対象者やテーマを広範囲にカバーしているため、各プログラムに十分な時間が取れていない。本年度アスリートにターゲットを絞ったプログラムを設定したこともあり、参加者間での満足度のばらつきも見られた。
- ・キャリア啓蒙と情報提供を分離、交流重視のリアルイベントを企画するなど年間を通したイベント計画を設計する必要がある。

IV. まとめ

本年度のさまざまな活動を通してアスリートのキャリア形成についての関心の高まりが確実に広がってきていることを実感している。来期以降も公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人日本パラスポーツ協会・日本パラリンピック委員会等との連携をさらに深めるとともに今期関係性を構築することができたアスリート委員との接点を広げ、アスリート、指導者層へのアプローチを行っていくとともに就学期のアスリートへのキャリア教育もサポートしていく必要を強く感じている。

これらのキャリアサポートの活動を継続的に実施・拡大していくために SCSC の自走化の道筋をつけ、安定した財源確保のスキームをつくることが喫緊の課題となっている。

冒頭にも記述したが、

私たちは、アスリートが安心してスポーツに取り組むことができ、引退後も自己実現ができるキャリアトランジションを成しえる環境をつくることは、スポーツ界だけでなくまさに現代のキャリア形成にかかわる社会課題の解決に貢献するものと考えている。

アスリートが引退後のキャリアにおいてもスポーツで培った能力を発揮し活躍することは、アスリート個人の人生の充実のみならず、社会資源としてのアスリートの人材価値を社会に還元することにも繋がる。また、アスリートの競技活動内外の継続的な活躍は、スポーツの価値を高め、スポーツ参画人口の拡大、スポーツ産業の発展に貢献する。スポーツ産業の拡大は、競技団体の経営基盤を向上させ、競技力向上にも大きく貢献することとなり、好循環が生まれる。

アスリートがそれぞれの競技で行っている限界への挑戦が、競技を離れた後にも自らのキャリアへの挑戦へと転換され、自己実現を成し、社会へ貢献し続けることが、日本社会の成長、希望につながるものとする。

SCSC に関わる会員団体、認定 ACC の活動の輪が大きなムーブメントになり、日本社会全体にアスリートスピリットをもった人材が活躍し、さまざまな分野で「挑戦」を続け日本社会の成長につながっていくことを願っている。

V. 事業実施体制

事業統括責任者

竹原 啓二

(株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長

ディレクター 兼 事業推進担当

曾我 隆之

(株) フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役社長

事業推進担当

藤原 健一

(株) フューチャー・デザイン・ラボ 取締役

アシスタント

岸野 菜つみ

(株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

バンザラグチ・ズンビレグ

(株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

高岸 遼

(株) フューチャー・デザイン・ラボ スタッフ

VI. 参考資料

参考資料1)－1 SCSC 会則 令和3年10月1日改正版

参考資料1)－2 寄附金等取扱規程

参考資料2) SCSC 会員一覧 2025年3月末現在

参考資料3) ACC 育成プログラム申込者・受講者属性および受講後アンケート結果

参考資料4) 認定ACC活動状況アンケート結果

参考資料5)－1 カンファレンスチラシ・産経新聞掲載広告

参考資料5)－2 カンファレンス運営業務報告書(株式会社MP&C作成)